

大阪府立大学 21世紀科学研究センター大阪検定客員研究員
平成29年度研究成果報告書

目次

はじめに

前阪 恵造	「鉄道遺跡」でめぐる大阪環状線	… 1
高木 昌之	トロリーバスが見た大阪 ～2020年全廃50年～	… 5
野津 弘昭	住吉大社の魅力探索 ー上町台地と河内、大和との結節点ー	… 9
辻本 伊織	大阪の坂道研究 無名坂にネーミング 第4章 天王寺七坂の謎	…13
八木 淳	観光資源としての住居表示に関する一考察	…17
湯川 敏男	大阪にあった東照宮の“その後”	…21
中村 昌也	大阪の「助っ人外国人」の調査研究	…25
坂本 良高	『大坂三十三所観音巡礼』を再考する	…29
村田 幸雄	大阪の御旅所めぐり	…33
柴田 洋一	発掘！幕末・明治 剣豪たちの足跡	…37
柳原 信雄	大阪の道沿い(筋・通り)の銀行変遷から大阪を探る	…41
森島 克一	「座」・金融都市大坂探訪	…45
大阪府立大学 21世紀科学研究センターとは		…49
なにわなんでも大阪検定について		…50

はじめに

「なにわなんでも大阪検定」を立ち上げるにあたって、私たちは、「大阪を再発見する機会の提供」「大阪を知り、愛する運動の推進」「大阪の都市ブランドの向上」「大阪を体験する機会の提供」という4項目の目的を設定しました。また他都市の検定とは趣向を違えて、検定の受験そのものが「楽しみ」となる「大阪らしい検定」を目指してきました。

2017年度の第9回試験の受験者数は3,335名（上級955名、初級2,380名）と2年連続で前回の受験者数を上回り、第1回からの受験者は30,550名となりました。また、第9回試験の受験者を対象に実施したアンケート調査では、88.1%の方が「大阪検定が楽しかった」と回答し、検定の学習を通じて「大阪に関する知識が増えた」という方は76.5%に上りました。大阪が持つ歴史や文化を知り、大阪に対する郷土愛と誇り（シビックプライド）を醸成する機会として、本検定が一定の役割を担う事業であると自負する所以です。

さて、「なにわなんでも大阪検定」では2013年度より、1級合格者のなかから選抜を行い、私が所長を務める大阪府立大学21世紀科学研究センター・観光戦略研究所の客員研究員に迎えて、独自に研究活動をすすめていただくプログラムを用意致しました。1年間、大阪府立大学でゼミを実施、各員の問題意識のもとに大阪の地域文化を活かした広義のツーリズム振興策について、独自の研究を展開していただくものです。

本冊子は、5年度目となる2017年度の研究員に参加したメンバーの研究成果をとりまとめたものです。専門家による調査研究ではありませんので、学術的な水準は十分ではないでしょう。ただそれぞれの提案は、1級合格者の方らしく、なによりも大阪の歴史と文化を再評価しつつ、観光やまちづくりに活かそうとするものです。「なにわなんでも大阪検定」の成果物のひとつとして、評価いただければ幸いです。

大阪検定活性化会議座長
大阪商工会議所都市活性化委員会副委員長
大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長
大阪府立大学研究推進機構教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長
橋爪紳也

「鉄道遺跡」でめぐる大阪環状線

前阪 恵造

【目的】

大阪環状線は、大阪-西九条-天王寺-京橋-大阪間を環状に結ぶ西日本旅客鉄道の鉄道路線で、大阪駅を起点、終点とする 21.7km の路線である。大阪環状線にある 19 駅のうち 13 駅が他の鉄道路線と結節し、大阪の鉄道ネットワークの要となっている。

2011 年に開業 50 周年を迎え、2013 年から「大阪環状線改造プロジェクト」がスタートした。このプロジェクトは大阪環状線を「行ってみたい」「乗ってみたい」線区に改造するハード・ソフト両面のさまざまな取り組みで、イメージアップを図り、大阪環状線の利用を拡大し、大阪の活性化の一端を担う取り組みである。

このプロジェクトは現在も進行中で、駅舎の改良や車両の更新、様々なイベントが進められており、「大阪環状線」は大きく変貌を遂げつつある。

本研究では大阪環状線の起源となった 3 つの鉄道を中心に、大阪環状線に点在する「鉄道遺跡」を観光資源として見直し、鉄道の変遷と街の移り変わりを知る「街あるき」や観光ツアーを提唱したい。

【内容】

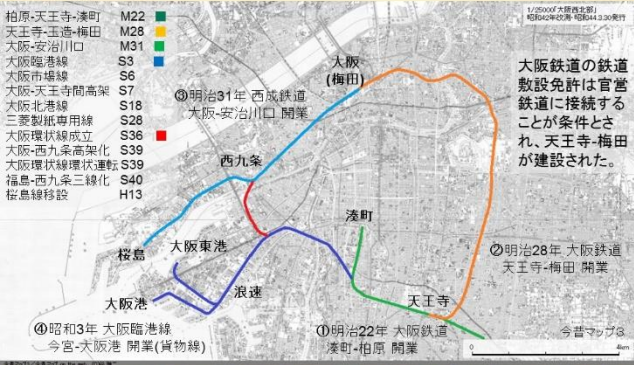
大阪環状線の歴史は明治 22 年、大阪鉄道(後に関西鉄道と合併) 柏原-湊町の開業に始まった。その後官営鉄道と連絡するために明治 28 年、天王寺-梅田が建設され、現在の大阪環状線の東側ができあがった。明治 31 年、西成鉄道 大阪-安治川口が開業し、西側の半分が建設された。両鉄道の国有化後、鉄道省によって昭和 3 年、今宮から分岐し大阪港に至る貨物線が開業し、環状線の輪郭がほぼ出来あがる。この貨物線は単線で開通したが複線分の用地が確保され、市街地部分は高架で建設された。残る安治川を挟む区間は港湾機能を確保する為に長い間、架橋できず、昭和 36 年、安治川橋梁の完成を待つこととなる。異なった事業主体で建設され、時代や目的、性格の異なった 3 つの鉄道が 1 本のレールで結ばれ、環状運転を開始したのは、大阪-西九条間の高架化が完了した昭和 39 年であった。

- ・大阪環状線の歴史
- ・大阪環状線「鉄道遺跡」の紹介。橋梁(架道橋、陸橋、跨線橋、乗越橋、交叉橋)、古レールを再利用上屋、廃線跡、他。

【結果】

- ・大阪環状線「鉄道遺跡」MAP の作成。
- ・「鉄道遺跡」を街なかに活かし、鉄道と街の歴史を残す提案。
- ・「大阪環状線 1 日乗り放題きっぷ」の提案。

大阪環状線の歴史



明治22年 大阪鉄道 湊町-柏原 開業にはじまり、明治28年 大阪鉄道 天王寺-梅田開業、明治31年 西成鉄道 大阪-安治川口 開業、昭和3年 大阪臨港線(貨物線) 今宮-大阪港 開業で、ほぼ輪郭ができあがったが、安治川に架橋できず、環状になったのは昭和36年。大阪-西九条間の高架化が完了し、環状運転が開始されたのは昭和39年であった。

明治30年 第1次市域拡張の範囲はほぼ、城東線、西成線の内側の範囲と重なる。



城東線は昭和7年、西成線は昭和39年、それぞれ高架化された。

大阪環状線の歴史-前史-明治初期、鉄道黎明期の廃線跡を走る「大阪環状線」



大半が高架線となっている大阪環状線には、多くの橋梁がある

水の都といわれ多くの河川や運河、水路のあった大阪だが、戦後、埋立が進み、現在、大阪環状線で河川に架かる橋梁は6ヶ所。また、道路を跨ぐ架道橋、鉄道を跨ぐ跨線橋も多く見られる。

JR 大阪環状線

橋梁名 阪堺電鉄陸橋

キロ程 8K130M

駅間 大正~芦原橋

住所 浪速区浪速西1-1

通り名 連絡運河橋(じょうりょう)

位置 大阪~福島 0K5.5M26

安 距 2.5 M 4.0

架設年月 2012年10月

架設回数 3回 架

架設種別 下道

及 中道 厚板型鋼管工管コンクリート橋梁

塗料名 上塗 厚板型鋼管工管コンクリート橋梁上塗

塗料メーカー 関西イベント株式会社

施工者 建設塗装工業株式会社

猪飼野架道橋

設計者 計 工

設計荷重 KS-15

高欄工

基礎掘入

着工 昭和7年3月

橋梁には名称が記載されている。今はなくなった地名や河川名称、鉄道会社の名前が残る橋梁もある。また河川がなくなっても橋梁は残されていることが多い。

橋梁-淀川橋梁、寝屋川橋梁、平野川橋梁、木津川橋梁、岩崎運河橋梁、安治川橋梁
 架道橋-跨道橋-猪飼野架道橋、阿弥寺街道二線橋、今宮井路架道橋
 跨線橋-交叉橋-乗越橋-片町線交叉橋、京阪電鉄交差橋、京阪電鉄乗越橋
 陸橋-阪堺電鉄陸橋、高野電気鉄道陸橋

天満-桜ノ宮間、大川(旧淀川)に架かる、淀川橋梁(昭和7年)。南側には明治期、大阪鉄道、関西鉄道が建設した橋梁跡が残されている。



河川改修で川幅が変わり、名称も**第二寝屋川**となったが、橋梁名称は変わらずそのままとなっている**平野川橋梁**(右)。淀江川は昭和初期、寝屋川に合流する改修工事で姿を消した。



関西本線跨線橋 (阿弥寺街道二線橋 大正10年)
 明治期のイギリス製鉄道橋梁の再利用で、大阪
 鉄道開業の際に「切通し」となり、分断された庚
 申街道に架かる。昭和4年、阪和電気鉄道開通
 時、阪和天王寺駅の開設により、現在の「くの
 字」形状に変更された。



土木学会歴史銅像集覧



阿倍野橋

大阪環状線で唯一、ホームが地下にある駅 天王寺駅
 湊町-柏原間の鉄道建設は、上町台地を「切通し」で横断し、地下に天王寺駅を設け
 た。「切通し」には南北の交通を確保するため、跨線橋が架けられた。跨線橋の名称は
 「阿倍野橋」。この橋梁の名称が、近畿日本鉄道「大阪阿部野橋」の駅名となった。

今宮井路架道橋 新今宮-今宮
 高架下に残る、
 明治期に作ら
 れた煉瓦積の
 橋梁。
 当初は井路(水
 路)に架かって
 いたものを人の
 通行用に転用
 したものと思わ
 れる。



コンクリート部分は昭
 和41年建設



大阪臨港線 (内廻り)昭和3年 大阪環状線 (外廻り)昭和36年

鯉川橋梁(昭和3年) 芦原橋-大正
 橋梁の下を流れていた鯉川は、四天王
 寺築造の際、木材を運ぶため、イタテに
 より開削されたという伝説の川。
 昭和10年(1940年)から昭和29年(1954
 年)にかけて埋め立てられた。
 大阪臨港線は複線の用地を確保されて
 いたが、実際には単線で運用されており、
 当初は内側に単線分の橋梁が架けられ
 ていた。



大正-弁天町間に鉄橋が4力所続くところがある。岩崎運河は旧尻無川上流が昭和27年に埋
 め立てられた後、尻無川となった。境川は昭和39年に姿を消した。



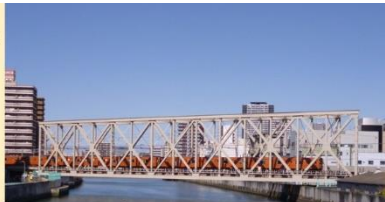
①岩崎運河橋梁(昭和3年) 土木学会歴史銅像集覧

②尻無川橋梁(昭和3年)右側 尻無川架道橋(昭和3年)

③境川橋梁(昭和3年) 境川(M35-S39)

大阪環状線に架かる橋梁は船舶
 の通航を配慮して、柱脚をもたない
 構造として建設されたものがある。

木津川橋梁(昭和3年)
 芦原橋-大正
 長さ106m、汽車製造製
 複線ダブルワーレントラス



土木学会歴史銅像集覧



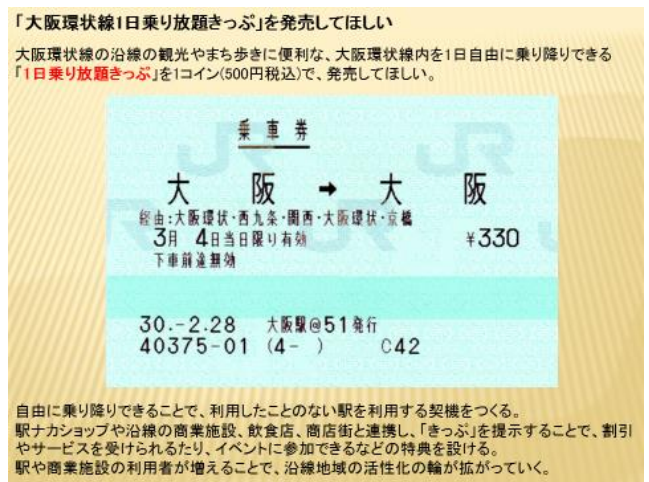
安治川橋梁(昭和36年)
 弁天町-西九条
 大阪環状線に最後に架橋された橋梁。
 中央支間は120.0m、
 全長173.6mアーチ型橋梁
 桁下は平均高水位上10.12m

森ノ宮駅(昭和7年)大阪大空襲で被害を受けた
 駅舎が修理され、今も大事に使われている。



黒門町架道橋(昭和7年 玉造駅)
 橋梁のあちこちに大阪大空襲の機銃射
 撃を受けた痕跡がある。橋梁の橋台には鉄
 道省の紋章が付けられている。

毎日新聞社「写真で見る大阪空襲」



トロリーバスが見た大阪 ～2020年全廃50年～

高木 昌之

【目的】

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年（平成32年）は、大阪では万博50年の節目の年という印象が強い。しかし、実は大阪市営トロリーバス全廃50年でもある。トロリーバスとは、「無軌条電車」とも呼ばれ、道路上空に張られた架線から取った電気を動力として走るバスで、分類上は鉄道である。大阪でのトロリーバス運行期間は昭和30年代を中心とした僅かな期間で、市電に比べその存在感は圧倒的に小さい。しかしながら、活躍した時期はまさに大阪が最も輝いた時期であった。

折しも、大阪・関西では、トロリーバス全廃となった1970年（昭和45年）に開催された大阪万博以来となる国際博覧会の2025年（平成37年）誘致を目指しその機運を高めつつある。本年11月には開催地が決定するが、選ばれれば当時を振り返るにはこれ以上のタイミングはない。

そこで、トロリーバス全廃50年を記念し、今も残る運行時の痕跡“トロリーバス遺跡”を巡ることで、「300万人都市大阪」を改めて見直す契機を作る。

【内容】

大阪におけるトロリーバスの歴史は、第二次世界大戦前は計画だけにとどまり実現しなかったため、1953年（昭和28年）に大阪市交通局が大阪駅前～神崎橋間を開通させたことに始まる。以来、1962年（昭和37年）まで延伸を続けたが、1965年（昭和40年）以降次々と休廃止され、1970年（昭和45年）には最後に残った守口車庫くまたちよう～杭全町間も廃止された。

この時代の“トロリーバス遺跡”と、当時から沿線に存在する見どころをつなぎ、大阪が最も栄えた時代が偲べるルートを設定する。

【結果】

“トロリーバス遺跡”のほとんどは架線柱で、しかも北区と淀川区に集中して分布していた。特に中津と三津屋跨線橋には見事な架線柱群が残されている。

そこで、この2つの架線柱群をメインに、十三大橋や聖せいあがないぬし贖主教会など運行時に存在していた見どころを織り交ぜながら、大阪市営バスの利用を想定し、中津六丁目バス停をスタート地点、東淀工業高校前バス停をゴール地点とした「トロリーバス遺跡巡り」ルートを設定した。

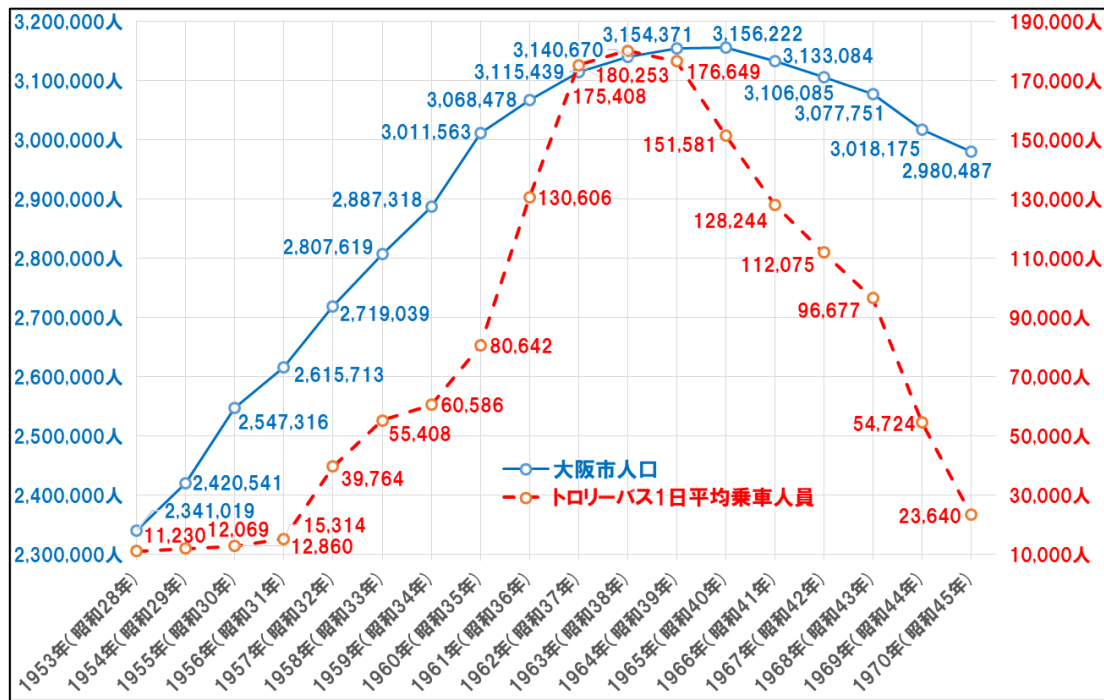
但し、トロリーバス全廃50年を盛り上げるには、唯一現存しているトロリーバス車両（大阪市交通局森之宮検車場内で保存）の公開も必要不可欠である。

1. 今、なぜトロリーバスなのか

大阪の衰退は、1970年（昭和45年）の大阪万博以降顕著になったと言われている。その年に全廃されたトロリーバスは、運行こそ僅か17年間だったが、「300万人都市大阪」として大阪が一番元気だった時代をちょうど走り抜けたことになる（図参照）。

そこで、2025年（平成37年）の国際博覧会誘致を機にかつての大阪の繁栄を振り返るための素材として、トロリーバスが最も適しているのではないかと考えるに至った。

図 大阪市人口とトロリーバス乗車人員の推移 1953年（昭和28年）～1970年（昭和45年）



2. 大阪が関わった日本最初のトロリーバス

大阪市営トロリーバスの実現は第二次世界大戦後であるが、大阪は、実は日本最初のトロリーバスの開業にも関わっている。

大阪心斎橋の呉服商、田中数之助は、新花屋敷温泉（現在の兵庫県宝塚市）を開発した際、新花屋敷温泉土地株式会社に、同地への交通手段として、1928年（昭和3年）に花屋敷（現在の兵庫県川西市）～新花屋敷間 1.3 kmを開業させた。但し利用客は伸び悩み、1932年（昭和7年）には廃止されている。

3. 大阪に残る“トロリーバス遺跡”を巡るルートの設定

大阪市営トロリーバスは、1953年（昭和28年）に開業し、最盛期の総延長は38.4 kmに達した。しかし、元々地上設備が少なく、しかも1970年（昭和45年）の廃止後半世紀近くが経過していることもあって、残存物は極めて少ない。大阪市指定文化財となっているトロリーバス200型255号車以外では架線柱のみである（表参照）。

但し、トロリーバスそのものの残存物ではないが、淀川区三津屋中2丁目には「トロリーバス」が記載された広告が民家の壁に残されている（写真参照）。

今回、これら“トロリーバス遺跡”の分布状況を勘案し、集中している北区中津から淀川区三津屋までを巡るルートを設定した（地図参照）。



表 大阪市営トロリーバス架線柱残存状況 [2018年(平成30年)2月現在]

系統	場所	残存柱数	備考
第1号線	北区中津3丁目・6丁目・7丁目	鋼管柱40	2018年(平成30年)1~2月に、残存鋼管柱4本のすぐ横に信号柱等計4本を新設し機能移行。
	淀川区十三本町1丁目	コンクリート柱1	十三バス停(柱巻広告残存)
	淀川区田川北1~2丁目・三津屋南2~3丁目	鋼管柱17 コンクリート柱3	三津屋跨線橋
	淀川区加島4丁目	コンクリート柱2	加島西交差点
第3号線	城東区今福南1丁目	鋼管柱1	新喜多大橋
第4号線	天王寺区悲田院町	鋼管柱1	阿倍野北操車場
	天王寺区堀越町	鋼管柱1	天王寺駅前(根元のみ残存)

地図 「トロリーバス遺跡巡り」ルート



【コース概要】(徒歩区間約4km)

大阪駅前バス停＝(大阪市営バス)＝中津六丁目バス停→中津架線柱群→十三大橋[1932年(昭和7年)市電敷設を想定して架橋]→十三バス停架線柱→聖贖主教会[1936年(昭和11年)ヴォーリズ建築建設事務所設計]→三津屋跨線橋架線柱群→三津屋中残存記載広告→東淀工業高校前バス停＝(大阪市営バス)＝大阪駅前バス停

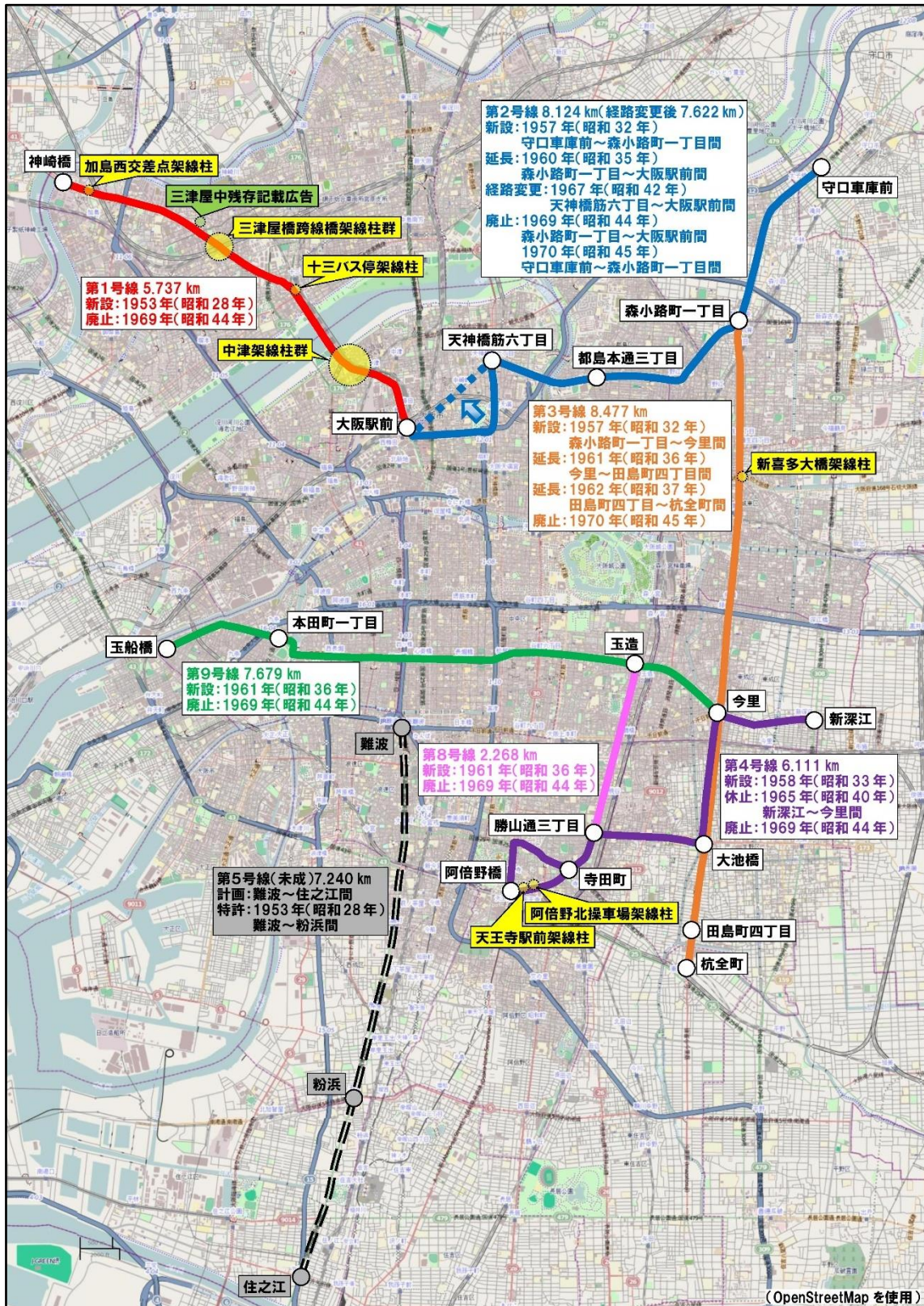
4. トロリーバスをめぐる状況とトロリーバス車両の公開

大阪駅前に1本だけ残されていた架線柱は、近年撤去されてしまった。中津架線柱群のうち4本は、2018年(平成30年)早々に新設された信号柱等に機能が移され、いつ撤去されてもおかしくない状況にある。

大阪以外でも、立山黒部アルペンルートの関電トンネルで、1964年(昭和39年)から運行されてきたトロリーバスが廃止され、2019年(平成31年)4月から電気バスに変更されることが決定している。

このように、トロリーバスをめぐる状況が厳しさを増す中、大阪万博開催への機運を盛り上げるためにも、トロリーバス全廃50年である2020年(平成32年)には、「トロリーバス遺跡巡り」に加え、唯一残されているトロリーバス車両の公開を、是非実現していただきたい。

《参考》 大阪市営トロリーバス路線図



◆参考文献等

- 荻野基・宮武浩二 (2017) 『大阪市営無軌条電車のあゆみ』 ネコ・パブリッシング、
- 吉川文夫 (1994) 『日本のトロリーバス』 電気車研究会、辰巳博・福田静二 『大阪市電が走った街 今昔』 JTB、 『大阪市交通局七十五年史』 大阪市交通局、大阪市交通局 (1993) 『大阪市営交通 90年のあゆみ』 大阪都市協会、大阪市ホームページ (2017) 「大阪市統計書」、関西電力ホームページ (2017) 「プレスリリース」

住吉大社の魅力探索

一上町台地と河内、大和との結節点一

野津 弘昭

【目的】

大阪城をはじめとした上町台地北部と比較して、これまで注目を浴びることが比較的少なかった上町台地南部エリアの中核的な歴史文化資産でもある住吉大社を対象として検討を進め、住吉大社の観光魅力の発掘につながる素材を提供する。

【内容】

住吉大社は、摂津の国の一之宮、旧官幣大社、また延喜式名神大社であり、全国の住吉神社の総本社という社格を持つ。また、数多くの摂社、末社を境内、境外に持ち、御田植神事、住吉祭などを今に伝えている。住吉大社は、和歌の神、住吉行宮や石灯籠など、中世、近世に淵源を持つ観光魅力もあるが、今回は古代の住吉大社に焦点をあて、検討を進める。

住吉大社の本殿建築は、国宝であり、切妻造、妻入り、内部は二室に区切られる等の住吉造である。

住吉大社の特徴としては、「古事記」「日本書紀」に鎮座由来の神話を載せる唯一の神社であること、特定の氏族の氏神ではなく、王権の神を祀っていること、また、外征・航海の神という性格を色濃く持っていることなどである。

古代においては、河内平野及びそれに接続する奈良盆地が、経済的にも政治的にも先進地であり、難波津が栄える6世紀までは、住吉大社隣接の住吉津が河内王朝や大和王権の首都の外港として重視された。王権の神、外征・航海の神である住吉大社、王権の外港の住吉津とは、地理的にも時代的にも近い河内王朝、倭の五王、百舌鳥・古市古墳群と密接な関係が推定される。全長280mを超える大規模な前方後円墳が全国で9つ存在するうち、河内、和泉に6つ存在するが、とりわけ、仁徳天皇陵、応神天皇陵などの巨大な古墳を造成したのは、5世紀に河内（和泉を含む）を根拠地として活躍した大王であり、非常に大きな富と権力を持った「倭の五王」時代の前後の大王等が想定されている。また、住吉大社、住吉津に所縁の深い大伴氏や津守氏などの有力者が帝塚山古墳をはじめとした住吉古墳群などを築造したと考えられる。

【結果】

世界遺産登録が予定される百舌鳥・古市古墳群、河内王朝等と住吉大社、住吉津、有力氏族等の関係がさらに解明され、そうした研究成果をもとに、当時の大和との関連も考慮し、新たな歴史ストーリー、観光ルートなどの観光魅力が発掘・発信されることが求められる。

住吉大社の魅力探索

—上町台地と河内、大和との結節点—

大阪府立大学21世紀科学研究センター
大阪検定客員研究員
野津 弘昭

今年度の研究について

- 今年度の研究対象として「住吉大社」を選定
 - 大坂の陣400年、NHK大河ドラマ「真田丸」等で、注目を浴びた上町台地北部と比較し、歴史文化資産を持ちながらもあまり注目されることの少ない上町台地南部エリアの歴史文化資産の掘り起こしを目的とした。
 - 今年度は、上町台地南部エリアの中核的な歴史文化資産とも言える「住吉大社」を研究対象とした。

住吉大社



住吉大社の概要

- 鎮座： 211年（神功皇后摂政11年）
（※帝王編年紀による）
- 祭神
 - 第一本宮（底筒男命） 第二本宮（中筒男命）
 - 第三本宮（表筒男命） 第四本宮（息長足姫命）
神功皇后
- 社格等
 - 摂津国一之宮
 - 旧官幣大社
 - 全国の住吉神社（約2300社）の総本社
 - 延喜式名神大社
 - 二十二社

住吉大社の概要

- 摂社、末社
 - 摂社4社（境内）
 - 大海神社、船玉神社等
 - 末社25社（境内21社、境外4社）
 - 楠珺社、種貸社、大歳社、宿院頼宮等
- 祭り、年中行事
 - 御田植神事、住吉祭、初辰まいり等

住吉大社の魅力～中世・近世～

- 和歌の神
 - 住吉明神は、玉津嶋明神、柿本人麿とともに和歌三神と称される。
 - 後鳥羽上皇行幸、藤原定家供奉
- 住吉行宮（正印殿）
 - 南北朝時代、一時期、南朝の第二代後村上天皇の居所とされた。
- 石灯籠
 - 17世紀半ば以降造立
 - 境内及び周辺地に約620基
 - 寄進者—全国的広がり—
 - 日本海側：松前から日本海を通過して九州の薩摩
 - 太平洋側：江戸や仙台

住吉大社～古代～

- 以下、住吉大社の古代に焦点をあて、観光魅力の発掘に向け、検討する。



住吉大社（本殿）

- 本殿建築（国宝）・住吉造
 - 住吉大神と神功皇后を祀る四本宮は、第一・第二・第三本宮が縦直列、第三・第四本宮が横並列
 - 独特の配列はあたかも大海原をゆく船団のように本宮が並び、古代の祭祀形態をよく伝える貴重な存在
 - 切妻造、妻入り（正面二間、側面四間と奥行が深い）
 - 内部は中央で仕切り、後部を内陣（ないじん）、前部を外陣（げじん） ※大嘗宮正殿の様式と類似
 - 正面に階段がつくだけで周囲に縁が巡らず、素朴な外観をみせるが、柱は朱塗り、壁は胡粉（ごふん）塗りの横板壁で色彩の対比が鮮やかである。

住吉大社の特徴

- 「古事記」「日本書紀」に鎮座由来の神話を載せる唯一の神社
 - 鎮座由来の神話 一神功皇后の新羅遠征伝承一
 - 仲哀天皇が熊襲征伐について神託を受けたところ、見知らぬ神（住吉三神：底筒之男、中筒之男、表筒之男）が神功皇后に憑りついて、新羅を討てと神託を下した。
 - 神託を信じなかった天皇は死に、神功皇后は神託に従って新羅を服属させた。遠征の成功の後、長門と摂津に祭られた。

住吉大社の特徴

- 王権の神
 - 住吉大社の大きな特徴は、特定の氏族の氏神という性格が全くみられないこと。
（祭神）
 - 底筒男命 中筒男命 表筒男命
 - 神功皇后
 - 住吉大社の本殿の様式（平面構造）は、天皇が即位直後に挙行される大嘗祭の際に造営される大嘗宮正殿の様式と類似している。

住吉大社の特徴

- 外征・航海の神
 - 全国の住吉神社のうち、最高の社格の名神大社である五社は摂津・長門・筑前・壱岐・対馬に分布。
 - この五社の立地は、大和王権の外港・住吉津を起点として西に向かう古代の対外航路そのままであり、大王の使節や外征軍を乗せた船が往復した朝鮮半島へ向かう海路に沿って配置されている。

住吉津

- 7世紀以前で、「大津」の表現が使われたのは、難波津と筑紫の那の大津（博多）、近江大津京の大津だけ
 - ⇒ 朝廷にとって特に重要な港
 - 古代においては、河内平野及びそれに接続する奈良盆地が、経済的にも政治的にも先進地。
 - 住吉津が河内王朝や大和王権の首都の外港として重視された。

住吉大社と百舌鳥・古市古墳群

住吉大社

- 王権の神
- 外征・航海の神
- 住吉津：王権の外港

⇒王権の神、外征・航海の神である住吉大社、王権の外港の住吉津とは、地理的にも時代的にも近い河内王朝、倭の五王、百舌鳥・古市古墳群と密接な関係が推定される。

住吉大社と百舌鳥・古市古墳群



百舌鳥・古市古墳群

- 全長280mを超える前方後円墳が全国で9つ存在するうち、河内、和泉に6つ存在する。
- 仁徳天皇陵、応神天皇陵などの巨大な古墳群を造成できたのは、非常に大きな富と権力を持った人物の存在を抜きにしては語ることを得ず、
- それらに該当するのは「倭の五王」時代の前後の大王等が想定されている。

倭の五王

- 倭の五王は、5世紀から6世紀の初めに中国の王朝（南朝・宋）に使者を送った讃・珍・斉・興・武の五人の王。
- 概ね、応神・仁徳・履中・反正・允恭・安康・雄略天皇に比定。
- いずれも5世紀に河内（和泉を含む）を根拠地として活躍した天皇。（河内王朝）
- 大王の宮の伝承
 - 応神天皇：大隅宮 仁徳天皇：高津宮
 - 反正天皇：丹比柴籬宮

有力氏族と住吉古墳群

- 大伴氏
 - 軍事面等で朝廷に仕え、住吉津にも拠点があった。
 - 大伴金村が対朝鮮外交の失敗により、住吉の宅に引きこもる。（日本書紀 欽明天皇元年（540年））
 - 津守氏
 - 住吉大社の神職を務め、遣唐使船に遣唐神主として乗船。
 - 住吉津の管理者。
- ⇒こうした有力者が帝塚山古墳をはじめとした住吉古墳群などを築造したと考えられる。

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産認定（予定）を契機として

- 今後、世界遺産登録が予定される百舌鳥・古市古墳群、河内王朝等と住吉大社、住吉津、有力氏族等の関係がさらに解明され、
- そうした研究成果をもとに、さらに当時の大和との関連も考慮し、新たな歴史ストーリー、観光ルートなどの観光魅力が発掘・発信されることが求められる。

大阪の坂道研究 無名坂にネーミング

第4章 天王寺七坂の謎

辻本 伊織

【目的】

大阪に存在する無名坂・忘名坂に名前をつけることによって、そこにある【自然景観】を【観光資源】へ止揚させることがそれぞれの章に通底したモチーフである。

【経緯】

『大阪の坂道研究』発表は5年目に入る。序章では坂道の定義や、坂道三点セットの提言、第1章は坂のまち『アベノの坂道10選』、第2章は大阪には少ない『人名坂の創設』、第3章『失われた坂を求めて』では忘名坂の名前探しであった。それぞれアプローチは違うがこの研究の根底にあるものは、現存する無名の坂道への愛惜であることをくみ取りご理解いただければ幸甚である。

さて、第4章は大阪の坂道の真打登場である。いうまでもなく『天王寺七坂』のことである。七つ全部が天王寺区にある坂道群である。『天王寺七坂』とはよくぞ名づけた、という讃嘆が偽らざる私の思いである。七つの坂それぞれに由緒ある名前を持ち、しかもそれらをより次元高い統一体とした『天王寺七坂』という名称も見事である。七は『天王寺七名水』や『四天王寺七宮』に共通する記号であり、それは夕陽丘界限に古より脈脈と続く情緒を感じさせる所縁でもある。まことに〈座りのいい〉名称ではなかろうか。

今この坂道群は大阪の観光資源としてゆるぎのないものになりつつある。

『天王寺七坂』が大阪の坂道の観光資源化として成功した稀有の事例であることを再三再四、私は坂道研究の過程において力説してきた。しかし今回『天王寺七坂』に焦点をあてたため、その坂道群の名称由来にささやかな疑義を差し挟まざるを得なかった。そのことを称賛と裏腹ではないかと思われるむきもあるかもしれない。しかし、もちろんそうではない。この疑義は『天王寺七坂』の名称を毀損するものではない。誤解なきよう、そのことはあらかじめ言明しておきたい。いや、むしろその命名の巧みさこそ賞賛すべきものである。このキャッチーなコピーを先に〈座りのいい〉と褒めたのは、いかにも往古から続いている雰囲気を漂わせる名称であるからだ。みんなが疑念無くころっと信じてしまう。これは言うならば一種のトリックであるかもしれない。だがそれは、悪意や詐術まがいのものでは決してない。命名者は現在まだ不詳ではあるが、我々に豊穡なイメージを与えてくれた彼（彼女）の素敵なトリックに感謝したい。

【今回発表報告】

以上の【経緯】から今回の発表は、数ある七坂の謎から時間の制約もあるので次のふたつを中心に発表を行いたいと考える。

天王寺七坂の名称の謎

愛染坂にまつわる謎

天王寺七坂のそれぞれの坂にはそれぞれの謎もいわれもあるし、現在決定している七坂が最初から今の組み合わせだったわけでもなく、他の候補坂もいくつかあったことは時代を映した大阪観光の書籍を繙けば明らかである。

今回の研究発表は根幹たる『天王寺七坂』名称の謎と、前回発表時に混乱したまま次回に続くとした『愛染坂』の名称に関する謎をピックアップして発表としよう。

現在も大阪坂道研究は継続中であり、今後新しい物的実証や証言など裏付けとなるエビデンスが出現するかもしれない。よって発表はすべて現時点で分かった範囲での仮説であることをお断りしておきたい。であるからこそ私自身も粘り強く懸案の課題を追って行きたいと考える。

【なぜ今回は、無名坂でなく有名坂をあつかうのか】

まず、『天王寺七坂』・・・名称をこれほど意識させる観光資源は珍しい。近江八景や金沢八景に迫るものである。前述したように観光資源としての坂道では、大阪いや全国的に見ても稀有な成功事例とリスペクトしてもかまわないだろう。『天王寺七坂』は幾多の無名坂の対極にあるものである。しからばこれらの無名坂は観光資源化の過程において須らく『天王寺七坂』を目指すべし。と、テーゼ化したくなるのは物の道理というものだ。そういうわけで私の「大阪の坂道研究 無名坂にネーミング」のはっきりした目標ができたわけである。まずは無名坂をなくし、そこにふさわしい名称を飾る。目標がなければそこへ至る過程の分明がつかないからである。

【用語の定義】

この段階で用語を確定するのも不思議な話かもしれないが、この研究はわれながら、どこが尾っぽやら頭やらと慨嘆するほど、どう進むやら判然としていない。同類の研究があるとも思えないので暗中模索手探りで用語も確定したいと考える。

今までは不用意に、あるいは便宜的に【有名坂】【無名坂】などと言ってきたのであるが、その意味するところをはっきりと定義づけていなかったのは、ご寛恕いただきたい。この機会に今までの研究を踏まえて確定すべきことは確定していこうと考える。

しかし、これまた前例がないので、私的な造語である。これもご承知いただきたい。

まず坂道を名称の関わる状態から大きく四つに分類する。

- ① 有名坂 named……………名づけられ名称を持つ坂道
- ② 名変坂 ……………当初とは名称が変わっている坂道
- ③ 忘名坂 ……………当初名称があったことはわかっているが、今は忘れ去られてそう呼ばれていない。文献上だけで今はどこにあるのかもわからないものも含む。
- ④ 無名坂 nameless (unnamed)文献的にも伝承的にも名づけられたことがない坂道。

世に有名だ、無名だというのは famous か unknown かということであり、これはどちらも名前はあるのだが、よく知られているかいないかの相違だけである。無名の作家なぞと表現されても名前はあるのである。それに反して私の坂道定義は単純に名前を持っているか名無しかの違いである。それでも『天王寺七坂』は有名な (famous) 有名坂 (named) だ、なんてことになってしまうから、この研究においては named か unnamed かだけのことと考えるいただきたい。今後それでも、ややこしければ名有坂・名無坂と分類表記を替えるかもしれない。

さて今回のスライドを使つての発表スピーチではこういった理屈っぽい話は避けて、より具体的な問題提起をしていきたい。展開は次のようなものである。細かい事象・事項については現時点で解答がでないものが多いかもしれないが、それは今後の研究課題とする。

【天王寺七坂の謎】

『天王寺七坂』はいつできたのか？

縄文海進の頃なのか？いやそういった地質学的問題や地形的興味を私はあまり持ち合わせていないので、そこはタモリ氏に譲るとして、私の研究で問題にしたいのは名称についてである。

その名称はいつできたのか？そして『天王寺七坂』の命名者はいるのか？いないのか？いるなら誰か？

七坂の選別はどうして、また誰によりなされたのか？あるいは自然に決まったのか？などなど、こういった謎が多ければ多いほど観光資源として物語性が豊かになり、それにひかれて文学などの素材にも容易に転化する。

例えば、昨年（平成 29 年度）第 5 回 大阪ほんま本大賞を受賞したのは 有栖川有栖の怪奇幻想オムニバス『幻坂』であった。この作品の舞台こそ、この『天王寺七坂』であると言えれば上記の脈絡も首肯していただければよい。

【愛染坂にまつわる謎】

『天王寺七坂』のひとつ『愛染坂』の名称はいつできたのか？同地点にあった『勝曼坂』との関係は？

『勝曼坂』は江戸時代では摂津名所図会に描かれた。大江神社の地にあった毘沙門堂の祭=毘沙門祭とセットで出てくる。そこでは正面の石段が『勝曼坂』を指しているような感じである。それ以来地図には必ず『勝曼坂』が出てきている。

明治33年（1900年） 大阪市明良新地図では遊行寺からまっすぐ東へ行く道が大江神社にあたり右へ曲がってまたすぐ東へ向かっている。この道に『勝曼坂』の名称がつけられその付近に『愛染坂』の名はない。この道は摂津名所図会の石段とするには形にも位置にも違いが大きい。またこの地図以前にも『愛染坂』の名称は各地図には現れてこない。それが

明治44年（1911年） 實地踏測大阪市街全図になると同地の同形態の坂に突如『愛染坂』の名前が出て『勝曼坂』はそれ以来消え去る。

両地図の期間の隔たりは11年。よほど大きな天変地異でも無ければひとつの坂が消え去り別の坂が出現することなどありえようがない。

『勝曼坂』が『愛染坂』と名前を変化させた？【名変坂】これはけっこうある現象だから、そう考えるのが普通ではないかと思うのだが・・・

そうすると摂津名所図会にある『勝曼坂』はどうなったのか？

幕末から明治にかけては廃仏毀釈の嵐が各地で湧きおこり、摂津名所図会の毘沙門堂も大江神社と名前を変えた（鳥居は同じものである）。その毘沙門堂の正面石段坂が『勝曼坂』というのも不思議である。通常なら『毘沙門坂』か、別社名から『乾坂』が妥当だと思われる。坂が入れ替わるような現象はこの時期には何も起こっていない。

しかもこの11年間には廃仏毀釈も昔の話となり、世の中も日清日露戦役の勝利を糧としてまさしく日本が安定に向かう時代である。

『勝曼坂』と『愛染坂』二つの坂名が同時に存在していることはない。この空白をつなぐものはなんだろうか？

この研究発表には

別添副資料がございますのでそちらにもお目を通して頂ければ幸甚です。

観光資源としての住居表示に関する一考察

八木 淳

【目的】

大阪市でも、住居表示を機に、それまで町名ではなかったが知名度のある通称が新町名に採用されたり、知名度のある地名の範囲が広がったりした。一方で歴史的価値のある地名が数多く消えていったことも事実である。

これらは「歴史より知名度を」と要望する地域住民や企業の声におされたとされる。「知名度」を「観光資源」と置き換えたならばより賛同する声があろう。

しかし歴史的価値と知名度（観光資源）は両立できないものであろうか。報告者の身近な地域を対象として考察したい。

【内容】

とくに個人において所在地を伝えるときに用いるのは町名ではなく市町村区名・駅名・通称名・近隣施設名が多い。

大阪市南区（当時）において、当初案で歴史的地名を採用する一方、街区方式に固執するあまり、幹線道路をはさんでいても不採用になった町名がでた。その復活陳情のなかでみえてきたのは、「すでに知名度がある」＝「観光資源として存在している」というよりは、「所在地をどう呼ばれたいか」つまり「住所を示したときにどう書いてあるのが好ましいか」という「主張」が強くあらわれている点である。

【結果】

したがって、企業・商店・住民を問わず、町名変更にこだわらず自分のイメージにあったように所在地を呼べばよい。歯止めが必要なら不動産の表示に関する公正競争規約を遵守すればよい。

大阪市の住居表示実施率は100%に限りなく近い。しかし「総合区制度」「大阪都構想」による行政区域再編を機に町名変更がおこなわれる可能性がある。

その際には、各企業・観光業界・各町会は、自分たちのイメージにあった通称名などで呼び、観光資源だからと通称名を無理に新町名に据える運動をしないでいただきたい。むしろ歴史的価値のある町名を残したり復活したりする運動に賛同していただきたいと切望する。

【はじめに】

大阪市でも、住居表示を機に、それまで町名ではなかったが知名度のある通称が新町名に採用されたり、知名度のある地名の範囲が広がったりした。一方で歴史的価値のある地名が数多く消えていったことも事実である。これらは「歴史より知名度を」と要望する地域住民や企業の声におされたとされる。「知名度」を「観光資源」と置き換えたならばより賛同する声があろう。

しかし歴史的価値と知名度（観光資源）は両立できないものであろうか。いや、そもそも観光資源として町名を変更しなくてはいけないか、報告者の身近な地域を対象として考察していく。

【「観光資源」と「知名度」】

「知名度」とは「世間に名が知られている度合」（『広辞苑』第7版 岩波書店 2018「知名」追込項目）、「マスコミなどを通じ、その人の名が一般の人に知られている・こと（様子）。（元来は称讃に値する人について用いられた）」（『新明解国語辞典』第7版 三省堂 2012「知名」項）である。「観光資源」とは「多くの観光客を集め利益をもたらす名勝・遺跡や温泉」（『広辞苑』）である。多くの観光客を集めるためには、その名がマスコミなどを通じ世間によく知られていなければならないから、両者に関連はある。

【「お住まいはどちら？」「お勤めはどちら？」】

さて、他人に居住地や勤務地を聞かれて、なんと答えるだろうか。相手との立場や関係によって違おうだろうが、旅行先などでは都道府県名・市町村区名、もう少し身近な地域では駅名・通称名・近隣施設名を答えるのではないだろうか。最近、後輩だけでなく同年代でも駅名を答えるのをよく耳にする。同期研究員11人に協力を仰いだところ、旅先では都道府県名が多く、大阪市内で聞かれると駅名や通称名（近隣施設名）が多いことがわかった。個体数は少ないものの、町名を答えるのは実にごく少ないと思われる。

【報告者の場合】

報告者の旧町名は「大阪市南区南阪町」である。近隣住民以外わからないであろう。小中学生の頃は「難波」「日本橋」「日本一（日本橋筋一丁目）」などと答えていた。

現在は「大阪市中央区千日前二丁目」である。聞いた人の反応は決まっている。

「え！ほんとう？」「ホンマに人が住んでるの？」「毎晩帰るまで誘惑が大変そう」…。

実は今でも「大阪」「大阪市の中心部」「難波」「日本橋」などと答え「千日前」とはほとんど言わない。それは千日前の中心部から離れているという意識があるのと、家族の影響で「千日前」には「歓楽街」「もと墓場」「もと刑場」など負のイメージがあると思込んでいるからである。もっとも人によってイメージはさまざまである。

【やるやん！南区】

大阪市公文書館で「住居表示町割折衝関係書類（南区）昭和53年度～昭和57年度編集」をみつけた。要望書や上申書が編綴されており、すべての意見が収録されているわけではないが、一端をうかがい知ることにはできる。

南区は当初「島之内」「御津」「順慶」「塩町」「賑」「桃谷」など歴史的価値を考慮した町名を検討していたようである。まさに「やるやん！南区」である。しかし法律や条例を遵守して「街区方式」に固執したあまり「日本橋」「谷町」「上本町」などが不採用になってしまった。

町割の方法には、道路をはさんで両側が同一町名とある「道路方式」（背割り町名）と、道路・鉄道・河川などで区切られた区画を単位とする「街区方式」とがある。住

居表示法では街区方式を標準とした。ところが大阪などでは道路方式が一般的だったので、街区方式にすると背中合わせの町名、例えば順慶町通・塩町通の町名を残そうとすると、背中合わせの安堂寺橋通・末吉橋通の町名が無くなってしまう。幹線道路をはさんでいるのに日本橋・谷町・上本町も例外とはならなかったのである。

【陳情の理由】

[千日前・日本橋・高津]

日本橋復活を願う陳情では「千日前は歓楽街のイメージ、日本橋は商業地で合わない」（堺筋西側）「高津は歴史的地名だが知名度が低い」（堺筋東側）が主な理由である。イメージと知名度がここでもキーワードになっている。

[島之内]

「島之内」とは東西横堀川・長堀・道頓堀に囲まれた地域である。当初は市（区）案に異を唱える声は少なかったが、御津地域が反対運動を活発化させると、他の地域も同調するようになっていった。「周辺部も一丸となって心齋橋筋をもりあげる」というのがその理由であるが、実際は市（区）は観光資源＝知名度があると考えた「心齋橋」「南右衛門町」だけを残し他を切り捨てたと判断し、心齋橋の知名度に乗りたいのが本音のようである。

【ふたたび「観光資源」と「知名度」】

つまり、「観光資源」「知名度」の実際は、辞書の解釈のように「世間にどのように知られているか」ではなく「所在地をどう呼ばれたいか」つまり「住所を示したときにどう書いてあるのが好ましいか」という「主張」が強くあらわれていると考えられる。しかしイメージや思いは人それぞれである。

【結果】

前述のように、個人が「どちらにお住まいですか？」に答えるときも、おおよそ上記の範囲内で答えることが多い。最寄り駅名を答える人が最近多く感じるのは、マンション居住者や物件案内を参照した人が多いだけでなく、わかりやすさを考えてのことであろう。

したがって、企業・商店・住民を問わず、町名変更にこだわらず自分のイメージにあった呼び方をすればよい。

例えば、「ウラなんば」は知る人ぞ知る隠れ家的イメージがあり知名度が高く観光資源として有益である。一方で「ウラ」の語感を嫌う人は多い。なので町名を「中央区うらなんば」にすれば必ず反対が起きる。だから通称でいい。また、現在「京橋」とつく町名はなくなってしまい、橋の存在を知らない人は多いが、鉄道駅周辺の歓楽街を「京橋」と呼ぶことは定着しており、混乱や不便を感じない。

イメージどおりにつけては歯止めがかからないという声もあろう。そこで参考にしたのが「不動産の表示に関する公正競争規約」第19条である。ここでは、慣例として用いられている地名又は歴史上の地名・最寄りの駅・直線距離で300メートル以内にある公園や旧跡などを物件の名称につけてよいと定めている。もちろんこれはマンション名やホテル名などの歯止め条項だが、実際に人々はこれを援用しているかのような感覚で名付けていると思われる。

大阪市の住居表示達成率はほぼ100%である。山間部のない他の政令市や東京都区部とくらべても格段に多い。

しかし「総合区制度」「大阪都構想」による行政区域再編を機に町名変更がおこなわれる可能性がある。その際には、各企業・観光業界・各町会は、自分たちのイメージにあった通称名などで呼び、観光資源だからと通称名を無理に新町名に据える運動で

はなく、歴史的価値のある町名を残したり復活したりする運動に賛同していただきたいと切望する。

【参考文献】

住居表示に関する法律

不動産の表示に関する公正競争規約

「住居表示町割折衝関係書類（南区）昭和53年度～昭和57年度編集」

大阪町名研究会『大阪の町名 一大坂三郷から東西南北四区へ』（清文堂 1977）

今尾圭介『番地の謎』（光文社知恵の森文庫 2017）

『広辞苑』第7版（岩波書店 2018）

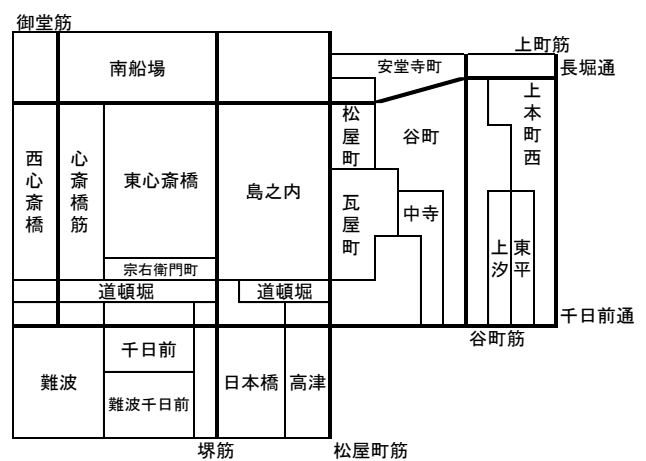
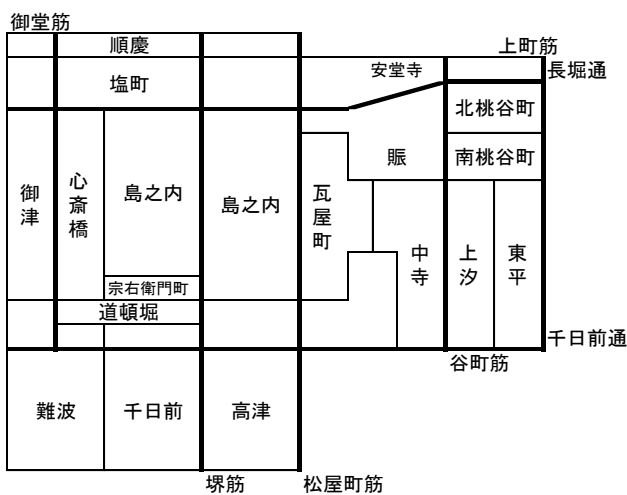
『新明解国語辞典』第7版（三省堂 2012）

【「道路方式」と「街区方式」】



【南区町名改正当初案 略図】

【南区現町名 略図】



大阪にあった東照宮の“その後”

湯川 敏男

【研究の対象】

江戸時代の始めから終わりにかけて、太閤びいきの大阪人の心を徐々に取り込み、祀られてきた川崎東照宮は幾多の盛衰を経て現在は存在しない。1616年（元和2年）に徳川家康が没すると、二代将軍秀忠は、神君家康公を東照大権現として、各地に東照宮を建て祀ることを命じた。大坂夏の陣後、大坂城主として入府し大坂の町の復興にあたった家康の外孫松平忠明は1617年（元和3年：昨年が創建400年に当たる）に大坂城の北側の天満川崎の地に「川崎東照宮」を建立した。しかし、徳川幕府が崩壊し、明治になると当社は廃絶となり、僅かに移設された建物や什物などが残るのみとなった。この川崎東照宮の盛衰をたどる探訪コースを調査・設定することを研究の対象とする。

【研究の目的】

川崎東照宮は現在の造幣局宿舎から滝川小学校の辺りにあった織田有楽斎の別邸跡地に造営された。しかし、大塩の乱などで何度も焼失しては再建されたが、1868年（慶応4年）正月3日に戊辰戦争が勃発すると長州藩の本営になり破壊された。これにより、同年9日の大坂城落城前々日の7日に東照宮の御神霊は埼玉県行田市の松平忠明を藩祖とする忍藩の忍東照宮に遷された。その後、1873年（明治6年）に川崎東照宮は廃社となった。この川崎東照宮の景観を復元し、堂宇や燈籠の移転先と伝わる建物、門、燈籠などが東照宮のどの堂宇や燈籠かを特定し、言い伝えの正当性の検証を実施する。その後、それらを訪れる探訪コースを設定し、手引書として別冊を作成し、江戸時代の大阪に、家康を祀る堂宇があり、大阪に赴任した城代や町奉行がまず参拝し、「権現まつり」が催され、一般人も参拝が許され、賑わった往時の歴史を偲ぶことを目的とする。

【研究の進め方】

まず、川崎東照宮の景観復元のために埼玉県行田市郷土博物館保管の松平家忍藩に伝わった『川崎東照宮絵図』や豊中市東光寺の『川崎東照宮境内絵図』を用いる。また、花暦浪花自慢の『権現まつり』、浪花百景の『川崎御宮』などの錦絵や明治に写された写真なども参照する。とくに『川崎東照宮絵図』は精緻な平面図で堂宇の正確な間取りや柱位置が描かれ、井戸や燈籠の位置も的確に表現されており、豊中市東光寺や大阪天満宮に移設されたとの伝承をもつ建物との比定が可能である。具体的には『川崎東照宮絵図』の中で移設伝承のある該当建物を絵図の間取りや柱位置より復元し、移設先の実物の建物と比較し、伝承の正確性を検証する。これらの結果をまとめ、史跡探訪冊子として別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』を作成する。

1. 川崎東照宮について

“神君”徳川家康（東照大権現）を祀る東照宮は、日光東照宮が有名であるが、各地にも分霊が祀られ、最盛期には約 700 社もあった。現在も明治維新の荒波をくぐり約 130 社が残っている。

1.1 成り立ち

大坂の陣の一年後の元和2年4月17日に徳川家康は駿府城で死去した。享年 75 歳（満 73 歳 4 ヶ月）であった。遺命は『遺体は久能山におさめ、（中略）一周忌が過ぎたならば、日光山に小さな堂を建てて勧請し、神としてまつこと。そして、八州の鎮守となろう』というものであった。家康の遺体は駿府の南東の久能山（現・久能山東照宮）に葬られ、家康逝去半年後の 9 月に後水尾天皇から家康に神号「東照大権現」が宣下され、12 月には社殿も造営された。一周忌の元和3年4月17日に江戸城の真北の日光（現・日光東照宮）に改葬された。なお、宮号「東照宮」は正保2年に後光明天皇より勅許されたものである。（本書においてはそれ以前の宮号「東照社」も便宜上、「東照宮」と表記）

項目	慶長20年 (1615)	元和2年 (1616)	元和3年 (1617)	〜	明治元年 (1868)	明治6年 (1873)
豊臣家		豊臣家滅亡			豊国神社	明治天皇の勅命により再興
徳川家		家康死去		江戸幕府	將軍家没落	明治維新
久能山 東照宮						
日光 東照宮						
川崎 東照宮						廢社

これを契機に各藩や家康ゆかりの地に東照宮が造営された。この各地の「東照宮」の嚆矢に当たるのが日光改葬と同じ日に造営された「川崎東照宮」で、この地が選定されたのは、織田信長の弟で、利休十哲の一人にも数えられる織田有楽斎の天満川崎の別邸跡地（邸内に有楽斎三井あり）で、邸内の茶室「如庵」に家康が度々訪れたことに因む。有楽斎がこの地に存らえれば、「有楽町」と呼ばれたかも知れない。

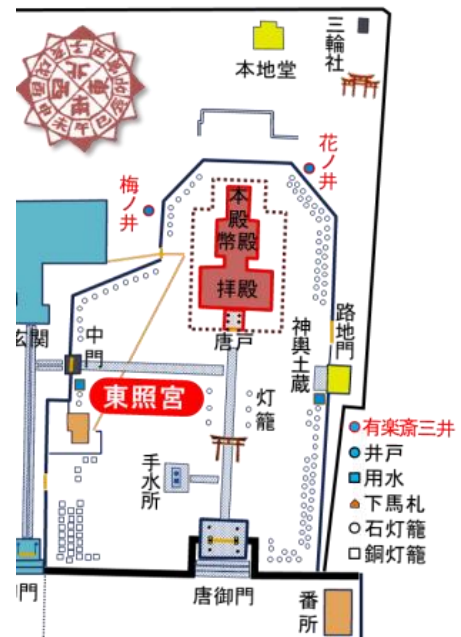
1.2 川崎東照宮の堂宇

一般の東照宮の社殿は本殿・幣殿（石間）・拝殿からなる「権現造」で、通常は平入の 3 棟と、それを串刺しにする妻入の縦の棟で一体化しているが、川崎東照宮は変則的に本殿が妻入で、妻入の縦の棟も小規模な構造となっている。

なお、同東照宮の西にある別当寺「建国寺」（元・九昌院）と建国寺の南にある「忍藩（現・埼玉県行田市）蔵屋敷」とは敷地を共有し一体化していた。

1.3 江戸時代の川崎東照宮

川崎東照宮は、松平忠明を藩祖とする松平家が祭祀する私的な宮であったが、大坂城代や東西の大坂町奉行が定例参拝するなど公的な性格を帯びてきた。当初は 4 月と 9 月の 17 日、天保 9 年よりは毎月 16・17 日は「権現まつり」と称し、一般民衆にも開放され参拝者で賑わった。この様子は前述の浪花百景の『川崎御宮』などの錦絵や地誌案内書『大坂繁昌詩』、『蘆分船』、『難波鑑』などの挿絵でも偲ばれる。その後、明治維新後の明治 6 年に川崎東照宮は前述のとおり廢社となった。



2. 川崎東照宮の史跡（その後）案内

本章では川崎東照宮の遺構や関連史跡と、川崎東照宮のすぐ北に役宅を構え東照宮に多大の被害を与えた大塩平八郎関連の史跡についても言及する。（昨年は大塩の乱から 180 周年に当たる）

2.1 造幣局近辺（北区天満1丁目）

川崎東照宮の社地は現在の天満一丁目のうち造幣局宿舎から滝川小学校・幼稚園のあたりと比定されている。造幣局の敷地からは徳川將軍家を示す丸に三つ葉葵紋の「葵紋屋根瓦」が多数発掘されており、その一部は造幣局造幣博物館に展示公開されている。また、家康も踏んだと伝わる有楽齋の茶室「如庵」の「有楽齋香脱石」が造幣局迎賓館レストラン「桜クラブ」の玄関脇に、滝川小学校正門右脇には「川崎東照宮跡」碑がある。他に、大塩の私塾「洗心洞跡」碑、大塩の乱後に設けられた「東照宮北限火除土手」、乱で焼けた「大塩の乱 櫓」、移設された「与力役宅門」などがある。その詳細は別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』を参照のこと。



2.2 東光院萩の寺（豊中市南桜塚1丁目）

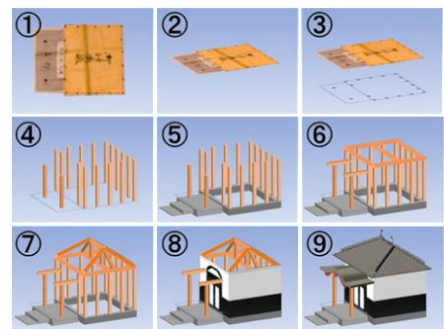
当寺は始め大阪北野（現・北区中津）にあって、「萩の寺」と称し、「南の四天王寺、北の東光院」と並び称された古刹で、大正3年、阪急の小林十三の要望で豊中市に移転し現在に至っている。川崎東照宮は廃社直前の明治5年に当山に遷座したことが昭和57年に当寺の経蔵から発見された文書や絵図により判明した。このため当寺には川崎東照宮より移設された「本地堂」と本地仏（神仏習合思想での神の本地であるとされる仏）や、昭和57年に発見された同一敷地に

項目	明治6年 (1873)	明治17年 (1884)	明治40年 (1907)	大正3年 (1914)	昭和9年 (1934)	平成29年 (2017)
川崎東照宮		慶応4年(1868)神君ご神体、神宝類を豊中東照宮へ移送				
宮村		燕亭湯(中之島:現リガロイホテル南駐車場)				
本地堂(御瑞殿)			北野東光院(萩の寺)			豊中東光院
神輿土蔵			北野東光院	与力・同心で構成 葵集樂部(空心中)		大阪天満宮
石灯籠			北野東光院	葵集樂部(空心中)		大阪天満宮

あった川崎東照宮、建国寺、忍藩蔵屋敷を精緻に画いた鳥瞰図『川崎東照宮境内絵図』、大坂城代などの東照宮参拝記録などが記録された「建国寺関連文書」が伝えられている。その詳細は別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』を参照のこと。

2.3 大阪天満宮（北区天神橋2丁目）

当宮境内に忠明が寄進した川崎東照宮の「石灯籠」が3基伝えられている。そのうち1基には「奉寄進 東照大権現宮 元和三丁巳年四月十七日 從四位下行侍兼下總守 源朝臣 忠明」と川崎東照宮の創建と同日の元和3年の銘を持つ石灯籠が梅花殿南側の中庭あり、残る2基は幣殿脇の西唐門前と東唐門前にある。なお、忠明が「從四位下行侍從」になるのは元和5年に大和郡山へ加増移封された後の寛永2年で、「東照宮」と称されるのは前述のとおり忠明が寛永21年に没した後の正保2年で、灯籠の銘は追刻か、あるいは寄進が東照宮創建よりのちの時代であるが遡って刻したとも考えられる。同宮には他に、川崎東照宮の「神輿土蔵」と「神輿」1基が伝えられている。なお、これらの石灯籠、神輿土蔵、神輿は数奇な運命をたどって現在地にあるが、その詳細は別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』に譲る。



上図の①～⑨は川崎東照宮の「神輿土蔵」(現・大阪天満宮「鳳輦庫」)を『川崎東照宮絵図』の柱位置よりCG再現したもの

2.4 吹田市法泉寺（吹田市江坂町3丁目）

この寺の朱塗りの「山門」は、明治6年の川崎東照宮廃社時に、その御成御門（南惣門/西惣門/裏門のどれか）を移築したものと伝えられている。

2.5 八尾市願立寺（八尾市太田1丁目）

この寺の「山門」は明治6年の川崎東照宮廃社時にその御成御門（南惣門/西惣門のどちらか）を譲り受けたとの記録があり、屋根の軒丸瓦は徳川幕府の象徴である三つ葉葵紋となっている。

2.6 リーガロイヤルホテル（北区中之島5丁目）

リーガロイヤルホテルの南駐車場あたりは、江戸時代、金刀比羅宮を勧進した丸亀藩や高松藩の蔵屋敷があり、多くの参詣者を集め、その東隣の柳川藩蔵屋敷付近まで「柳川の夜店」として廃藩後も続いた。明治12年ごろ柳川藩蔵屋敷の跡に一大娯楽場が出来、その中に燕亭という講師が、川崎東照宮の宮材を貰い受け、今で言う豪華なスーパー銭湯風の「燕亭湯」を建て、湯船に入ると、頭上からほとぼしる湯滝に浴する仕掛けなどで賑わったが、明治17年ごろになくなったと伝わる。

2.7 田蓑神社（西淀川区佃）

天正14年に徳川家康一行が源氏の祖を祀る多田神社に参拝のおり、田蓑嶋の漁民が神崎川の渡船を勤めた縁により、「全国どこで漁をしても良し、又、税はいらない」という特別の書面を与えた。漁業の一方、田も作れと命じられ、その言をもって田蓑嶋を佃と改めた。後、寛永8年に田蓑（嶋）神社内に、徳川家康を祀る「東照宮」が創建された。（本能寺の変時の岡崎城への帰城説もあり）

2.8 埼玉県行田市郷土博物館（埼玉県行田市本丸）

前述のとおり川崎東照宮の御神霊は忍城本丸跡の忍東照宮に遷され、同敷地にある当博物館には川崎東照宮の精緻な平面図『川崎東照宮絵図』、東照宮の扁額に用いられた「後光明天皇宸翰御額字」、東照宮のご神体の一つの『徳川家康画像』などが収蔵している。

2.9 大隈庭園（新宿区西早稲田1丁目）

老中にもなった肥前唐津藩主水野忠邦が大坂城代在勤時（文政8年－9年）に川崎東照宮へ寄進の「石灯籠」のうち1基が川崎東照宮廃絶後、造幣局より早稲田大学創立者の大隈重信に寄贈され、明治20年に竣工した大隈邸に併設された庭園（現「大隈庭園」）へ石灯籠も移設され、公開されている。石灯籠の竿（柱）部分正面の銘に「東照宮 尊前」、裏面に「文政九歳丙戌四月朔穀旦 従四位下水野左近将監忠邦」と刻まれ、忠邦の大坂城代在勤期間と合致する。



2.10 上野東照宮（台東区上野公園9丁目）

上野東照宮の参道に歴代大坂城代が寄進した川崎東照宮にあった「石燈籠25基」が移設されている。これらの経緯を記した「重建石燈碑記」碑も同参道にあり、これには川崎東照宮が明治維新で廃され、川崎東照宮の器具競売の折、有志（碑文裏面に有志之士一覧を記載）が川崎東照宮境内の石燈籠25基を買い取った旨が記載されている。

3. 川崎東照宮の“その後”巡り

史蹟の地域的分布は大阪市内、大坂近郊、関東地方に分れる。大阪市内のうち、造幣局近辺と大阪天満宮は近接しておりセットで巡ることが可能であるが、残る史蹟についてはポイント毎に、他の史蹟と併せて、ついでの折の探索となる。これらの史蹟の詳細な解説は別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』に譲ることとする。



4. おわりに

別冊の便覧『川崎東照宮の“その後”巡り』を片手に川崎東照宮の史蹟を巡り、江戸時代の大阪の当宮の歴史と江戸幕府と庶民との当宮を介した関わりについて偲んで頂きたい。

最後になったが、この研究に関しては埼玉県行田市郷土博物館より当博物館に寄託されている絵図等を開示頂いた。また、早稲田大学 大学史資料センターには水野忠邦寄進の石灯籠についての資料と貴重なご意見を賜った。大阪天満宮文化研究の近江晴子氏には大阪天満宮社報『てんまてんじん』の関連記事のご提供や神輿等のご教示を頂いた。ここに記して謝意を表する。

<参考文献>

- ・『天満まるかじり：その歴史と文化』大阪市立博物館編 大阪市立博物館 1988
- ・『川崎東照宮関係記録(1)：東光院萩の寺所蔵文書』徳川時代大坂城関係史料集第13号 大阪城天守閣編 2010
- ・『川崎東照宮関係記録(2)：東光院萩の寺所蔵文書』徳川時代大坂城関係史料集第15号 大阪城天守閣編 2012
- ・『大坂天満「川崎東照宮」考』小島喜久男 文学部紀要 第24号 四天王寺国際仏教大学 1992
- ・『第21回テーマ展 忍藩主松平家と東照宮』行田市郷土博物館編 2010
- ・『豊中市東光院蔵「川崎東照宮境内絵図」をめぐって』北川央 大阪の歴史 第31号 大阪市史編纂所編 1990
- ・『近世大坂社会における天満川崎東照宮の歴史的位置』中野光浩 歴史評論 第569号 歴史科学協議会編 1997
- ・『てんま 一風土記大阪一』宮本又次 大阪天満宮 1977 ・『郷土研究 上方』第94号・第95号 創元社 1935
- ・『大阪史蹟辞典』三善貞司 清文堂出版 1986 ・『てんまてんじん』第63号 大阪天満宮社報 大阪天満宮社務所 2013
- ・『百年の大阪1 幕末維新』大阪読売新聞社 浪速社 1966 ・『大阪の神さん仏さん』釈徹宗、高島幸次 140B 2012

大阪の「助っ人外国人」の調査研究

中村 昌也

【目的】

さらなるインバウンド拡大を目指し、大阪がこれまで以上に海外の人々に親しみを感じてもらえる都市となるよう、大阪の発展に貢献した「お雇い外国人」の功績に光をあて、それを内外に発信することにより大阪の好感度アップを図る。

【内容】

江戸時代及び明治時代に政府に雇用され、日本に欧米の新知識・技術などを伝え、日本の近代化に寄与した「お雇い外国人」。こうした「お雇い外国人」のうち、特に大阪に顕著な功績のあった者等を大阪の「助っ人外国人」として調査対象とする。

①医学関係（蘭）

ボードイン、エルメレンスは、大阪に洋式病院を導入・定着させた。とりわけエルメレンスは日本初の洋式病院管理規則を制定する等により、治療の合理化を図った。

ハラタマは、我が国の理化学教育の嚆矢となった舎密局の大阪開局に尽力するとともに、先駆的な実験化学教育を実地で行った。

②治水関係（蘭）

デ・レーケとエッセルは、淀川上流のはげ山で砂防工事を行い、大阪の治水に貢献した。また、低水工事を成功させ、淀川に小型蒸気船が運航できるようにした。この際のケレップ水制工事により、多様な生物を育む淀川のワンドが生みだされた。

③大阪砲兵工廠関係

ガウランド（英）は大阪砲兵工廠で英国式反射炉の製作を指導。その技術が明治14年創立の大阪製銅会社に受け継がれた。

【結果】

『大阪の助っ人外国人の足跡を辿る』まち歩きコースの提案

ボードインが住居にしていた法性寺や浪華仮病院があった大福寺、彼らが勤務した大阪医学校跡、ハラタマ博士像のある舎密局跡地碑など大阪市内には医学・化学系の助っ人外国人のゆかりの地が多く存在する。また、大川沿岸にはデ・レーケとエッセルが淀川治水工事に着手した将基島粗朶水制跡碑やキンドル、ガウランドなどが紹介されている造幣博物館、ウォートルスが設計した泉布観などがある。大阪の発展に貢献した「助っ人外国人」を知ってもらうため、こうしたポイントをつないだまち歩きコースの作成・PRに取り組む。

併せて、大阪の「助っ人外国人」の功績をまとめたHPを立ち上げ、まち歩きコースと併せて内外に発信することを検討する。

江戸時代末期及び明治時代に高額な給料で雇用され、日本に欧米の新知識・技術などを伝え、日本の近代化に寄与した「お雇い外国人」は、大阪においては造幣局や医学関係、治水関係、軍事関係などで活躍した。

【大阪で活躍した主なお雇い外国人】

- ①医学関係：ボードイン、ハラタマ、エルメレンス、ドワルス他
- ②治水関係：ブラントン、ファン・ドールン、デ・レーケ、エッセル他
- ③軍事関係：ガウランド、グリロ他
- ④造幣局：ウォートルス、キンドル、ガウランド、フィンチ、ブラガ他

こうした「お雇い外国人」のうち、特に大阪に顕著な功績のあった者、本来の職務の範囲を超えて功績のあった者を大阪の「助っ人外国人」として調査対象とする。

(1)医学関係

A・F・ボードイン（蘭）とC・J・エルメレンス（蘭）

A・F・ボードインは、1862年（文久2年）来日。1869年（明治2年）2月、大阪府に雇用され、浪華仮病院（大福寺境内）の主席教授となる。同年7月には鈴木町代官所跡（現：大阪医療センター）に新装の仮病院と大阪医学校が開設され、ここでボードインは当時蔓延していた性病をはじめ、眼科・内科・皮膚科、神経科などの講義を行った。

同年10月には、刺客に襲撃され負傷した大村益次郎の大腿部切断手術を行う。

また、大阪城内に開設される軍事病院を設計し、近代軍医学の専門書「撰兵論」を講義。大阪には約1年半滞在した。

C・J・エルメレンスは1870年（明治3年）の夏、ボードインの後任として大阪医学校教師に着任。当時29歳。36歳までの7年間、大阪に滞在した。

エルメレンスは明朗な人柄で大の日本びいき、診療は親切で腕は抜群だった。松尾耕三「近世名医伝」（1886年出版）には、お酒が好きで細かいことにこだわらず、日本人との酒席にも喜んで出席し、酔えば踊り始めることもあった。普段から欲がなく施しを好んだ。衣服は質素で汚れていても気にしなかった、と紹介されている。

1872年（明治5年）10月、政府の中央集権的な新学制の制定により、大阪医学校及び病院が廃止された。その後、洋式病院の存続を願う鴻池善右衛門、住友吉左衛門ほか有志300余名からの寄付により、西本願寺北御堂境内に1873年（明治6年）2月、大阪府病院が開院した。

エルメレンスは、この大阪府病院において数々の功績を残す。新病院開院後、エルメレンスの指導により日本最初の洋式病院規則が制定され、医局で発行した入院・外来処方箋を薬局長の管理する薬局で調剤を行う日本初の完全な病院内医薬分業が始まった。また、「入院患者給食規則」により、日本初の正式な病院直営給食が開始された。

(エルメレンスは講義の中で日本最初の栄養学教育を行い、四大栄養素の重要性を説いている。) 1875年(明治8年)に、大阪府は「開業医心得」を布達し、開業医にエルメレンスの講義と診療を聴講、見学するよう勧告している。

エルメレンスの講義は医学全般にわたり、その口述は数十冊の書物として出版された。1877年(明治10年)6月、任期満了。

1880年(明治13年)フランス旅行中に急病で死去。享年38歳。エルメレンスの訃報に接し、病院長高橋正純らが記念碑建設の発起人となって募金活動を行ったところ、数か月のうちに現在の貨幣価値で数百万円が集まったと言われている。

1881年(明治14年)8月、記念碑除幕祭、招魂祭が盛大に執り行われた。記念碑は当初、中之島の難波橋よりのところ(北区中之島一丁目)に建立。昭和12年に大阪大学学友会の手によって医学部本館の前庭(現・大阪大学中之島センター敷地)に移された。(現在は吹田市の大阪大学医学部玄関前に移設)

ボードインには大阪における西洋医学・洋式病院の導入に尽力した功績、エルメレンスには西洋医学の導入に加え、卓越した専門的知識と誰からも慕われる人柄によって大阪に洋式病院を定着させるとともに、府立の病院に日本初の制度を数多く導入して治療の合理化を図った功績がある。(ハラタマについては、紙面の関係で割愛)

(2) 治水関係

ヨハニス・デ・レーケ(蘭)とジョージ・アーノルド・エッセル(蘭)

デ・レーケはエッセルとともに1873年(明治6年)に来日。エッセルは当初、大阪港・淀川の工事の計画・設計を担当し、デ・レーケは工事の現場指導を担当した。

デ・レーケとエッセルの大阪における功績は、まず、大阪の治水のために淀川上流の京都府、滋賀県、三重県のはげ山で土砂の流出を防ぐ砂防堰堤や「わら網工」を施工したこと。

また、「ケレップ水制」による低水工事で淀川を蒸気船の運行できる運河に改修した。流れを緩やかにするため河川内の低水路を蛇行させるとともに、岸近くの凹形部分の水衝部に粗朶沈床によるオランダ式水制(ケレップ水制)をつくって堤防を強化する計画を立て、明治7年、試験的に現在の天満橋上流の将基島付近に水制を作った。こうした工事の完成により、多様な生物を育む淀川のワンドが生みだされた。この後、淀川改修工事の実質的な責任者はデ・レーケに移り、エッセルは1878年(明治11年)帰国した。

1884年(明治17年)デ・レーケに大阪港の築造計画が任され、1887年(明治20年)「大阪築港並ニ淀川洪水通路改修計画」を策定。1889年(明治23年)には淀川を毛馬で堰き止め新淀川を開削する「京都府並ニ大阪府ノ管下ニ於ケル

淀川毎年ノ漲溢に対スル除害ノ新計画」を策定したが、これらの計画は財政難などの理由により実現しなかった。

1894年（明治27年）海外留学経験のある内務省技師の沖野忠雄は、毛馬に洗堰を設け、新淀川を開削するデ・レーケの計画を基本に、琵琶湖沿岸の洪水被害を防ぐために瀬田川を大きく掘削し、洗堰を設けるとともに宇治川を付け替える計画を策定した。この計画に対し、デ・レーケは宇治川の付け替えや瀬田川洗堰は必要ないと主張したが、1895年（明治28年）デ・レーケの意見を容れない沖野の案が成案となった。国土交通省淀川河川事務所のHPには、「沖野は、先に行われたオランダ人技師デ・レーケらの工法をわが国の河川様式に修正応用するなど柔軟に工事を進めました」と紹介されている。

大阪の治水のためにデ・レーケやエッセルが淀川上流の府県において砂防工事を行ったことや、淀川の低水工事の完成には設計者であるエッセルの功績が大きかったことはあまり知られていない。こうした功績に対して相応の顕彰が行われるべき。また、デ・レーケは大阪築港や淀川の高水工事の計画策定において、日本人技術者が育つまでの間、「技術顧問・相談役」としての役割を果たした。

（大阪砲兵工廠関係については、紙面の関係で割愛）

大阪の「助っ人外国人」の功績を内外へ発信

（1）『大阪の助っ人外国人の足跡を辿る』まち歩きコースの提案【※参考資料参照】

- ①ボードインが住居にしていた法性寺（中寺1） →
- ②浪華仮病院があった大福寺（上本町4） →
- ③ボードインが大村益次郎の大腿部を切断 大村益次郎殉難報國之碑（法円坂2）
- ④ボードイン、エルメレンスが勤務した大阪医学校跡大阪医学校跡（法円坂2）
- ⑤舎密局跡地碑・ハラタマ博士像（大手前4） →
- ⑥大阪初の外国語学校 大阪英語学校跡（大手前2） →
- ⑦デ・レーケとエッセルが淀川治水工事に着手した将棊島粗朶水制跡碑（大川右岸 天満橋のたもと） →
- ⑧キンドル、ガウランド等が紹介されている造幣博物館（天満1） →
- ⑨ウォートルス設計の泉布観（天満1） →
- ⑩ガウランドやグリロが技術伝承した大阪砲兵工廠の碑（大阪城太陽の広場付近）

（2）インターネットによる大阪の「助っ人外国人」の功績の内外への発信

大阪の「助っ人外国人」の功績をまとめたHPを立ち上げ、まち歩きコースと併せて内外に発信することを検討する。

『大坂三十三所観音巡礼』を再考する

坂本 良高

【目 的】

江戸初期の寛永年間に設立された『大坂三十三所観音巡礼』は、大阪民衆の手近な行楽として流行し、庶民の身近な家内安全や心願成就の祈りの場でもあった。

しかしながら、この大坂三十三所観音霊場も幕末から明治期にかけての宗教改革、1945年（昭和20年）の大阪大空襲による焼失、および都市計画に伴う道路拡張や鉄道拡幅によって、廃寺や郊外への転出などの歴史の大波を被っている。

近世大阪の歴史遺産である「大坂三十三所観音巡礼」が、歴史的にどのような変遷を経て、現状がどうかを把握し、観光資源としての有効性を研究の目的とする。

【内 容】

日本で三十三所観音霊場巡礼がはじまりとしては、西国三十三所観音霊場巡礼が平安時代とされている。その後、坂東三十三所観音霊場巡礼・秩父三十四所観音霊場巡礼を合わせて、百所観音霊場巡礼が整備された。ただし、これらの観音霊場巡礼は、多くの国々に跨っており、一般大衆が手軽に巡礼することは、困難であった。

そこで、江戸時代には、江戸・洛陽・大坂三十三所観音巡礼が政治・文化の中心地の霊場として繁栄した。その後、同様の霊場巡りが、各地にできたと伝えられている。治安の確立と交通機関の整備発達は、巡礼を容易にし、民衆化した。同時に巡礼の行楽化を招いたとされている。

ここ大阪で元禄期（1688～1703）に当りをとった近松門左衛門の「曾根崎心中」の冒頭は、遊女・お初が大坂三十三所観音めぐりの段で始まる。このお初が江戸初期に巡礼を行った「大坂三十三所観音霊場」は、江戸後期には、2番の寺院の寺名が無くなっており、16番の寺院が大坂三郷内で場所が変わっていた。幕末・明治維新での宗教改革では、四つの神社（3番・10番・32番・33番）から観音堂が撤去され、廃仏毀釈政策の影響で廃寺（31番）になった寺院もある。

特に、寺院にとって被害甚大だったのは、1945年（昭和20年）の大阪大空襲であった。このため、郊外へ転出することになった寺院（4番・6番）、寺院はその場所に復興したが観音堂が復興しなかった寺院（7番・8番・14番）がある。また、都市計画事業のため、郊外に転出した寺院（13番・17番）もある。

【結 果】

江戸初期に、「曾根崎心中」で遊女・お初が「観音巡り」した内、江戸期の同じ場所で観音霊場が継承されている19の寺院と露天神社（通称 お初天神）の「お初と徳兵衛の像」への探訪ルートを『純正・大阪観音霊場』として提案する。

また、『純正・大阪観音霊場』以外の神社仏閣は、『「曾根崎心中」ゆかり地』として、整理し、「曾根崎心中」関連街歩きの資料として提出する。

1. 三十三所観音霊場巡礼

日本で三十三所観音霊場巡礼がはじまったのは、平安時代の西国三十三所観音霊場巡礼からとされている。その創始者は、奈良の長谷寺の徳道上人とか花山法皇とされている。その後、坂東三十三所観音霊場巡礼・秩父三十四所観音霊場巡礼を合わせて、百所観音霊場巡礼が整備された。ただし、これらの観音霊場巡礼は、多くの地域に跨っており、近代までは一般大衆が手軽に巡礼することは、困難であった。

そこで、江戸時代には、政治・文化の中心地であった江戸・洛陽・南都・大坂において三十三所観音巡礼が整備され、繁栄した。同様の観音霊場巡りが、各地にもできた。近世は、治安の確立が図られ、交通路や宿泊場所の整備発達は、各地の観音巡礼を容易にし、民衆化した。同時に巡礼の行楽化を招いたとされている。

2. 大坂三十三所観音巡礼と「曾根崎心中」

江戸初期の寛永年間（1624～43）に設立された『大坂三十三所観音巡礼』は、西国三十三所観音巡礼になぞらえて、大阪の各社寺内に三十三所の参拝所を設け、一日のうちにそれを巡拝できるという便宜的な信仰方法が考えられた。大阪民衆の手近な行楽として流行し、庶民の身近な家内安全や心願成就の祈りの場でもあった。

ここ大阪で、元禄 16 年（1703）に当りをとった近松門左衛門の「曾根崎心中」の冒頭は、遊女・お初が大坂三十三所観音めぐりの段で始まる。夜明け前から観音巡礼を始め、途中で「白む夜明け」を迎えている。26 番の心光寺辺りで「日も傾きぬ」と夕刻であることから、一日がかりの観音巡礼であったことが分かる。

3. 大坂三十三所観音霊場の歴史的変遷

これらの大坂観音霊場も歴史の大きな波に洗われて、衰退・変遷を繰り返している。その主要な原因を列記すると下記のようなになる。

- ① 幕末から明治期にかけての宗教改革（神仏分離、神社合祀）
- ② 昭和 20 年の大阪大空襲による焼失
- ③ 大阪市街の都市化に伴う鉄道敷設・幹線道路の拡幅

このため、廃寺になったものや郊外への転出などで様変わりしている。

4. 『純正・大阪観音霊場』と『「曾根崎心中」ゆかりの地』

今回、「大坂三十三所観音霊場」について、二通りの街歩きの提案をする。

① 『純正・大阪観音霊場』について

「大坂三十三所観音巡礼」のうち、現在でも、江戸期と同じ場所で観音霊場が継承されている 19 寺院と「お初・徳兵衛の像」が設置されている「露天神社（通称：お初天神）」を『純正・大阪観音霊場』の探訪場所として提案する。

『純正・大阪観音霊場』の一覧表

札番	寺院名	観音名	所在地	最寄り駅
1 番	太融寺	千手千眼観音	北区太融寺町 3-7	JR 大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩 10 分
5 番	法界寺	聖観音	北区兎我野町 15-2	JR 大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩 8 分
9 番	栗東寺	十一面観音	北区与力町 1-7	地下鉄（南森町駅）徒歩 8 分
11 番	興徳寺	准胝観音	天王寺区餌差町 2-17	JR 環状線（玉造駅）西へ徒歩 10 分

12番	慶伝寺	聖観音	天王寺区鶴差町	JR環状線（鶴橋駅）西北徒歩7分
15番	誓安寺	十一面観音	天王寺区城南寺町6-29	近鉄（上本町駅）徒歩10分
18番	本誓寺	聖観音	天王寺区生玉町3-6	地下鉄（谷町九丁目駅）南へ徒歩5分
19番	菩提寺	十一面観音	天王寺区生玉町4-10	地下鉄（谷町九丁目駅）南へ徒歩5分
20番	六時堂	千手観音	天王寺区四天王1-11	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）5分
21番	経堂	如意輪観音	天王寺区四天王1-11	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）5分
22番	金堂	救世観音	天王寺区四天王1-11	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）5分
23番	講堂	十一面観音	天王寺区四天王1-11	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）5分
24番	万燈院	十一面千手観音	天王寺区四天王1-11	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）5分
25番	新清水	十一面千手観音	天王寺区伶人町5-8	地下鉄（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）10分
26番	心光寺	十一面観音	天王寺区下寺町1-3-68	地下鉄（日本橋駅）南東徒歩19分
27番	大覚寺	千手観音	天王寺区下寺町1-3-77	地下鉄（日本橋駅）南東徒歩16分
28番	金台寺	十一面観音	天王寺区下寺町1-3-88	地下鉄（日本橋駅）南東徒歩13分
29番	大蓮寺	十一面観音	天王寺区下寺町1-1-30	地下鉄（日本橋駅）東徒歩5分
30番	三津寺	十一面観音	中央区心斎橋2-7-12	地下鉄・近鉄（なんば駅）北徒歩4分
番外	露天神社（お初天神）		北区曾根崎2-5	JR大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩6分

② 『曾根崎心中』ゆかりの地について

「純正・大阪観音霊場巡り」以外の、近松の『曾根崎心中』の観音霊場関連の場所と近松の墓所を『曾根崎心中』ゆかりの地」として、探訪の基礎資料を提出する。

『曾根崎心中』ゆかりの地の基本リスト

札番	社寺名	変遷の事情	所在地	最寄り駅
2番	長福寺	享保年間以降、寺名が無くなる。		—
3番	神明宮	石碑・神明社旧跡有。	北区西天満6-8	JR大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩8分
	露天神社	明治期、神社合祀。	北区曾根崎2-5	JR大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩6分
	円通院	聖観音 明治期、神仏分離。	北区兎我野町7-8	JR大阪駅/阪急・阪神・地下鉄（梅田駅・東梅田駅）徒歩10分
4番	法住寺	戦災で焼失。 S46、郊外移転。	（北区兎我野町）	—
		聖観音	吹田市千里山東2-19-1	阪急（千里山駅）南へ徒歩4分
6番	大鏡寺	戦災で焼失。 S35、郊外移転。	（天満天神の森の北）	—
		（十一面観音 現存せず）	吹田市五月が丘南23-1	阪急（千里山駅）東へ徒歩23分
7番	超泉寺	戦災で焼失後、廃寺。 （馬頭観音 現存せず）	（北区与力町）	—

8 番	善導寺	戦災で焼失。 (観音 現存せず)	北区与力町 2-5	地下鉄 (南森町駅) 北 2 筋スグ
10 番	玉造稲荷	明治期、神仏分離。	中央区玉造 2-3-8	JR 環状線・地下鉄 (森の宮駅) 徒歩 10 分
	龍海寺	戦災で焼失。 (十一面観音現存せず)	北区同心 1-3-1	JR 大阪天満宮駅・北へ徒歩 5 分
13 番	遍明院	都市計画で郊外移転。	(天王寺区)	—
	難波寺	十一面観音	生野区巽北 1-7-18	地下鉄 (北巽駅) 西へ徒歩 13 分
14 番	長安寺	戦災で焼失。 (観音名 不明)	天王寺区城南寺町 5-13	近鉄 (上本町駅) 徒歩 5 分 地下鉄 (谷町九丁目駅) 徒歩 10 分
16 番	藤の棚	石碑・観音坂 有。	中央区谷町 6-5	地下鉄 (谷町六丁目駅) 徒歩 3 分
	西光寺	明治期、移転、廃寺。	(上寺町)	—
	和勝院	S9 年、移設、廃寺。	(西区新町 1)	—
	浄円寺	(観音 ナシ)	淀川区新北野 3-10-4	—
	瀧安寺	S13 年、移設。	箕面市箕面公園 2-23	阪急 (箕面駅) 北へ徒歩 14 分
17 番	重願寺	寺跡の石碑 有。	天王寺区谷町 9-5	地下鉄 (谷町九丁目駅) 北へ徒歩 7 分
		都市計画で、郊外移転。	東大阪市山手町 12-3	近鉄 (額田駅) 山側徒歩 10 分
31 番	白髪町観音堂 (大福院)	(十一面観音 現存せず) 通称・白洲崎観音。	(西区白髪町)	—
	円正寺	明治期に、移転、廃寺。	(天王寺区下寺町 2)	—
32 番	難波神社 撰社・博労 稲荷	千手観音 明治期、神仏分離。	中央区博労町 4-2-1	地下鉄 (心斎橋駅) 北へ徒歩 5 分 地下鉄 (本町駅) 南へ徒歩 5 分
	善導寺	戦災で、焼失。	天王寺区下寺町 2-1-17	地下鉄 (日本橋駅) 南東徒歩 15 分
33 番	御霊神社	十一面観音 明治期、神仏分離。	中央区淡路町 4-4-3	地下鉄 (淀屋橋駅) 南へ徒歩 3 分
	随求寺		(天王寺区下寺町)	—
	西照寺		天王寺区下寺町 2-2-45	地下鉄 (日本橋駅) 南東徒歩 17 分
番外	近松門左衛門の墓所		天王寺区谷町 8	地下鉄 (谷町九丁目駅) 北へ徒歩 10 分

5. 最後

この探訪のご利益としては、「曾根崎心中」の最後の語りになわく、「貴賤群集の回向の種、未来成仏疑いなき、恋の手本となりにけり」とありますので、探訪された方々の『極楽往生と恋愛成前は間違いなし』。合掌。

【参考文献】

- ・「曾根崎心中・冥途の飛脚」近松門左衛門 岩波書店 1977
- ・雑誌「上方・大阪三十三所観音めぐり」(第 51 号) 梅原忠治郎 1935
- ・「難波大阪 郷土と史蹟」牧村史陽 編 講談社 1975

大阪の御旅所めぐり

村田 幸雄

【目的】

祭りは、大きな観光資源の一つである。祭りの中でも渡御は、祭りのクライマックスで、祭りを盛り上げている。

大阪でも、平成に入り、いくつかの神社の祭りで渡御が復活し、ますます祭り人気が高まっている。○平成 13 年、難波八阪神社で船渡御が 230 年ぶりに復活。○平成 17 年、住吉大社で人力による神輿渡御が 45 年ぶりに復活。○平成 23 年、御霊神社で船渡御が 140 年ぶりに復活。○平成 26 年、生国魂神社で人力による陸渡御行列が 70 年ぶりに復活。

渡御は一般に、本社から御旅所への神幸と、御旅所から本社への還幸から成り立っている。渡御行列は、陸渡御にしても船渡御にしても、多くの観客を引きつける祭りの華である。渡御行列が向かう御旅所は祭りの中心の一つであるが、その存在はあまり知られていない。御旅所とは一体何であろうか？ どのような歴史があるのか？ 大阪の神社の御旅所を取り上げ、「大阪の祭り案内」の参考としたい。

【内容】

- ①大阪の主要神社（31社）の御旅所を訪れ、「大阪の御旅所マップ」をまとめた。
- ②各御旅所の実態を調査し、大阪の御旅所を形態別に分類し、まとめた。
- ③「大阪の御旅所、謎解き散歩」として、大阪の主要神社の御旅所の「あれこれ」を紹介した。

- ・摂津名所図会などで取り上げられた坐摩神社や難波神社の渡御の今は？
- ・生国魂神社に2つの御旅所があるのは？ 又、2つの御旅所での神事の違いは？
- ・生国魂神社が明治になって初めて御旅所を定め渡御を開始したのは？
- ・大阪天満宮の御旅所が、京町堀川→戎島→松島と遷座したのは？
- ・又、御旅所が本社から遠く離れた新しく開削された堀川に設営されたのは？
- ・住吉大社の宿院頓宮（御旅所）を大鳥大社が共用しているのは？
- ・明治初期松島に住吉神社（大社）と大阪天満宮の御旅所が隣り合わせで在った？
- ・築港大棧橋の渡り初めとして、住吉神社（大社）の船渡御が行われたのは？

【結果】

紙面の制約もあり、「大阪の御旅所、謎解き散歩」については、坐摩神社、難波神社、生国魂神社、大阪天満宮、住吉大社の御旅所に絞っての紹介となった。

他にも、波太神社、誉田八幡宮、難波八阪神社、杭全神社等の御旅所にも、面白い謎があり、「謎解き」は今後の課題としたい。

1. 御旅所とは

御旅所は、一般に御祭神が氏地内を渡御する途中で仮に遷座する場所と定義される。天神祭の起源は、天暦5年（951）社頭の浜から神銚を流し、漂着した地をその年の御旅所とし、船渡御行ったこと、とされている。

現在では、御旅所にはいろいろな形態、歴史があり、以下で紹介したい。

2. 大阪の御旅所あれこれ ～大阪の御旅所のいろいろな形態

（歴史、場所、写真等詳細については参考資料に記載）

①合祀先を御旅所としている神社

桜宮、杭全神社、熊野大神宮、八王子神社

②氏地が広く、御旅所が2ヶ所にある神社

大隅神社には井高野と瑞光に、弥栄神社には味原と勝山に御旅所がある。

③神輿台だけの御旅所の神社

御幸森天神宮、波太神社

④祭神の墓所を御旅所としている神社

阿部野神社（祭神・北畠顕家）は、北畠公園の北畠顕家墓所を、

誉田八幡宮（祭神・応神天皇）は、隣接する応神天皇陵を御旅所としている。

⑤駐車場の一角の祠を御旅所としている神社

若宮八幡大神宮

⑥普段から御祭神が鎮座し、神社としての体裁が整っており

御旅所を「御旅社」と呼んでいる神社

綱敷天神社の茶屋町の御旅社

⑦公園を借用し、仮設の御旅所で神事を行っている神社

阿倍王子神社は、文の里公園に仮設の御旅所を設け神事を行っている。



3. 大阪の御旅所、謎解き散歩

①摂津名所図会などで、大阪の代表的な祭りとして取り上げられた坐摩神社や難波神社の渡御は、今はどうなったの？

坐摩神社・・・神幸供奉の行粧すこぶる美観なり（摂津名所図会大成）

難波神社・・・祭礼厳重、楽倫祭勤、道路音楽あり（摂津名所図会）

坐摩神社は昭和30年代に、難波神社は昭和48年に交通事情や氏子の関係で渡御列は中止、今は見る事が出来ない。

②-1 生国魂神社に行宮（本町橋御旅所）と元宮（大阪城御旅所）の二つの御旅所があるのは？

明治14年に氏子が土地を献納し、本町橋御旅所が設営された。昭和7年に、大

阪城公園の整備が行われた時に、元々の鎮座地である大阪城域に元宮として大阪城御旅所が設営された。(豊臣秀吉の大阪城築城の際、城域外の現在地に遷座させられた)

②-2 行宮（本町橋御旅所）と元宮（大阪城御旅所）での神事の内容は異なるのか？

行宮（本町橋御旅所）では、氏子の安寧を祈願し、元宮（大阪城御旅所）では、難波大社として大阪の歴史を振り返り、大阪全体の安寧を祈願している。



②-3 大阪天満宮、御霊神社、難波神社、坐摩神社等の大阪の主要神社では江戸時代から御旅所が設営され、渡御が行われていたが、生国魂神社では明治になって初めて御旅所が設営され、渡御が開始されたのは？

江戸時代、生国魂神社は生玉十坊と呼ばれた神宮寺が存在し、仏教勢力が主導権を握っていた。明治新政府の神仏分離令で神宮寺が廃絶され、神社主導の運営が行われるようになり、御旅所が設営され、渡御が行われるようになった。

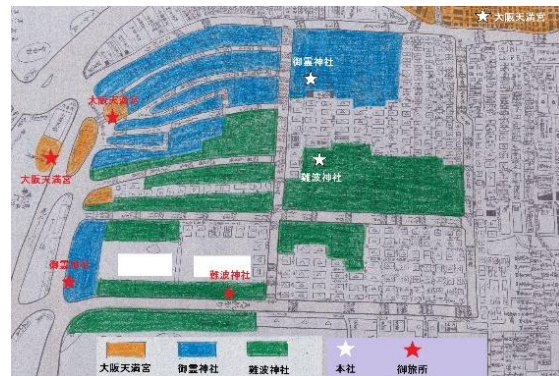
③-1 大阪天満宮の御旅所が、京町堀川流末の地⇒戎島⇒松島と遷座したのは？

寛永・正保の頃（1624～47）京町堀川流末の地に常設の御旅所が設営された。寛文・延宝の頃（1661～75）近くに雑喉場市場が成立し、手狭になり、戎島に遷座。明治4年に、戎島の御旅所が古くなり建替えが必要になったこと、近くに川口外国人居留区が設営され、不測の事態を避ける為、松島遊郭の繁栄策の一環として誘致された等々で、松島に遷座し今日に至っている。



③-2 本社から遠く離れた、新しく開削された堀川近くに御旅所が設けられたのは？

豊臣期から徳川初期にかけて大阪の堀川が開削され、新たに靱の海産物市場、雑喉場の魚市場、新町遊郭などが開設された。これらの新興開墾地での氏地の確保を目的に、氏地としての実績をつくるために、御旅所を設営した。御旅所の設営が、天神祭の鉾流神事に見られるような宗教的理由から経済的理由に変化していった。



(大阪天満宮、御霊神社、難波神社の氏地区分と御旅所

永井洋子氏の資料を参考)

④-1 住吉大社の御旅所（宿院頓宮）を大鳥大社が共用しているのは？

宿院頓宮は平安時代に住吉大社の御旅所として設営された。明治になり摂津と和泉の郡境が堺の大小路から大和川に変更され、明治9年、摂津一之宮の住吉大社の神輿が大和川以南に入れなくなった。その間に和泉一之宮の大鳥大社の宿院頓宮への渡御が認められた。明治12年に地元の強い要望で住吉大社の宿院頓宮への渡御が復活し、以降、7月31日に大鳥大社、8月1日に住吉大社の渡御が行われるようになった。



④-2 明治初期に、大阪天満宮と住吉神社（大社）の御旅所が隣り合わせで在った？

改正新版大坂明細全図（1882年）によれば大阪天満宮の御旅所と住吉神社（大社）の御旅所が隣り合わせで在ったことがわかる。

住吉神社（大社）の松島御旅所設立の経緯は以下の通りである。

住吉の北祭として、大海神社の玉出嶋で御祓いが行われていたが、明治5年の「官私祭の別」の通達で中絶した。明治7年に、篤志家の寄付で松島の御旅所が造営され、松島御旅所への渡御が行われた。背景に、松島の繁栄策、世話人の要望、北祭復活への神社の期待があった。



その後、松島御旅所は資金上の問題で、大正4年には廃絶した。

④-3 築港大棧橋の渡り初めに住吉大社の船渡御が行われたの？

明治36年の築港大棧橋竣工の時には、西村捨三築港事務所長の「海上安全保護は住吉に」との要請で、住吉の浦からの海上渡御、築港大棧橋上陸、松島御旅所への豪勢な渡御が実施された。

4. 参考文献

- 大阪天満宮史の研究 大阪天満宮史料室編 思文閣出版
- 大阪天満宮史の研究 第二集 思文閣出版
- すみのえ 住吉大社社務所
- 住吉大社史下巻 所功ほか 住吉大社奉賛会
- 大阪府神社史資料 大阪府神社庁

発掘！幕末・明治 剣豪たちの足跡

柴田 洋一

【目的】

歴史研究の分野では従来、江戸時代の大阪の位置づけは商いの街であり、武士の存在は注目されにくかった。しかし、近年、大阪を**武士の町**として位置づけ直す動きが見られる。今年「幕末・維新150年」が大阪城等で催される良い機会である。

剣豪史跡を巡る歴史散歩的研究を進め、スポーツと伝統文化との融合という側面をもつ剣道をはじめとするさまざまな武道の振興事業と、近隣住民や国内外の観光客をターゲットにした観光産業の活性化につなげる広報活動に研究成果を役立てる。

【内容】

1 問題意識：「**技は千葉、位は桃井、力は斎藤**」いわれた幕末江戸三大道場はすべて、大阪と関わりが深い。しかし、大阪の史跡案内には、**斎藤弥九郎**や**桃井春藏直正**に関する顕彰史跡がほとんど見あたらない。大阪府知事よりも剣豪として有名であった**渡辺昇**らも含めて、幕末・維新の動乱期に大阪で活躍した剣豪たちの姿を明らかにし、現代剣道の盛んな今の大阪に繋がるストーリーとして紡ぎたい。

2 進め方：（1）大阪の剣道史と地域史に関する専門機関に協力を求め、剣豪たちの足跡について、時代考証に適切な古地図や古文書、遺物や伝承等を探し、史跡となる場所を特定する。（2）新しく掘り起こした史跡や、以前から別の史跡として知られていたものを位置づけ直して再発見した史跡について、**歴史散歩コース**を設定する。

（3）幕末・明治の剣豪についての資料を、大阪府剣道連盟事務局や図書館、古書籍などから網羅的に読み込み、また、大阪城の**城代屋敷・東西町奉行所役宅**と**与力同心屋敷**、**幕末江戸四大道場**と**幕府遊撃隊**等の**玉造臨時講武所**での動きや明治以降の大阪での剣道の興隆史を概観する。とくに**鏡心明智流**士学館**桃井春藏直正**や師範代の**秋山多吉郎**や**黒谷左六郎**について、文献や伝承から把握する。**阪部大作**、**武市半平太**、**那須盛馬**（**片岡利和**）らに伝えられた**伝書五巻**を読む。また、ご子孫や関係者から当時の写真や逸話について提供を受け、資料を収集する。

【結果】

大阪の幕末維新の**剣術稽古場**を再発見し、また、鏡心明智流の人物の大阪での動きや伝書の所在を確認した。それらを含めて、**幕末・維新サムライ散歩コース**を設定した。しかし、明治期に鏡心明智流が**警視庁撃剣世話掛**から**警視流**に吸収される一方で、古流各派が大日本武徳会へと再編される動きを把握しきれなかった。今後、歴史散歩コースの多言語翻訳版の作成をめざす。武道振興や観光事業に貢献することをめざす。
<おもな参考文献> 『鈴鹿家文書』財団法人全日本剣道連盟、『剣道日本』スキージャーナル社、『剣道時代』体育とスポーツ社、『大阪代官竹垣直道日記』関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター、『浪花隊遺聞』加藤政一 筑摩書房、『十津川文武館百年史』十津川高校、『新修大阪市史第5巻』、『大阪府警察史第1巻』、『人物往来歴史読本』人物往来社、『大日本剣道史』堀正平 剣道書刊行会、『明治大正剣豪伝 範士秋山多吉郎 強剛八十六歳の老剣客』体育とスポーツ社、『剣の達人黒谷左六郎重寛』竹鼻康次、『伊庭八郎のすべて』新人物往来社、『同方會誌』同方會、『全国諸藩剣豪人名事典』間島勲 新人物往来社、『大阪市南区桃谷地域の住居表示変更と郷土史』永田耕作、ほか

発掘！ 幕末・明治 剣豪たちの足跡

幕末維新 サムライ散歩コース
剣豪・剣客の足跡を歩いて健康・健脚になろう

大阪府立大学 21世紀科学研究センター
大阪検定客員研究員
柴田洋一

①梅田・中之島～森ノ宮

- 地下鉄 梅田駅
 - 大藏寺門前 小林佐兵衛旧宅跡
 - 本伝寺 新撰組谷三兄弟墓
- 京阪 中之島駅
 - 鳥取藩蔵屋敷跡 千葉重太郎ゆかりの地
 - 中津藩蔵屋敷跡 桃井春蔵遺跡地
 - 福沢諭吉生誕地
- 地下鉄 北浜駅
 - 通塾 緒方洪庵・福沢諭吉・大島圭介ゆかりの地
 - 勝海舟寓居跡 海軍塾(専修寺)
 - 富岡藩蔵屋敷跡 新撰組吉村貞一郎ゆかりの地
 - 難波橋 池内大天誅の地
 - 花外楼 桂小五郎潜伏先、大阪会議址
 - 龍筆屋跡 清川八郎の天誅見物
 - 天神橋 内山彦次郎天誅の地
- 地下鉄 南森町駅
 - 大阪天満宮 新撰組屯所跡、星合の池と神樂殿
 - 刀匠水田國重 大塩平八郎の愛刀
 - 成正寺 大塩平八郎墓
 - 天満寺カ・同心組屋敷 遊撃隊大坂屯所跡
- 龍海寺 大村益次郎足塚
- 旧鈴鹿町 桃井春蔵真正高居跡
- 旧通帯家跡造正面玄関・泉布敷 斎藤弥九郎ゆかりの地
- 大満同心組屋敷 大塩平八郎役宅跡
- 森の通り跡 局長遊撃隊跡
- 建国寺跡 桃井の天満道場跡

②玉造～天王寺・本町

- 地下鉄 玉造駅
 - 心眼寺(真田出丸跡)
 - 京都見廻組墓 桂早之助と濃辺吉太郎
 - 真田山旧陸軍墓地
- 地下鉄 谷町六丁目駅
 - 北桃谷町 五十軒屋敷
 - 鏡心明智流土学館跡
 - 日柳三舟宅、鉄砲同心牧田屋敷
 - 坂本絃之助俊貞宅跡
- 地下鉄 松屋町駅
 - 大和鼎吉遺難の地
 - 石蔵屋ぜんざい屋跡
 - 土浦藩蔵屋敷跡
- 地下鉄 谷町九丁目駅
 - 大仙寺 伊庭八郎宿所跡
 - 大倫寺 坂本絃之助俊貞墓・碑
- 生國魂神社 島男也道場跡
- 川崎孫四郎自刃地
- 大蓮寺 秋田貞瑞墓
- 萬福寺 大坂新撰組屯所跡
- 口繩坂 土方歳三とお誓いの再会
- 稱念寺 陸奥宗光旧墓所・清子地藏
- 大江神社 旧山口藩殉難諸士招魂碑
- 地下鉄 四天王寺前夕陽丘駅
 - 四天王寺西門前
 - 高橋多一郎自刃地
 - 一心寺 東軍戦死者招魂碑
- 地下鉄 阿部野橋駅
 - 阿倍野墓地 秋山多吉郎墓ほか
- 地下鉄 本町駅
 - 秋山多吉郎道場跡 南堀江三丁目
 - 谷万太郎道場跡 南堀江二丁目
 - 土佐稲荷神社 十一烈士抽選場所
- 地下鉄 西長堀駅

③郊外編 近鉄奈良線・南海本線・高野線

- 近鉄奈良線 花園駅
 - 吉田春日神社、吉田源兵衛墓
 - 富景楼跡、松原宿跡
- 近鉄南大阪線 古市駅
 - 菅田八幡宮 神宮桃井春蔵旧宅
 - 菅田西墓地 桃井春蔵墓
- 南海本線 粉浜駅
 - 東粉浜小学校 土佐住吉陣屋跡
- 南海本線 堺駅
 - 天誅組上陸の地
 - 堺事件発生の地
 - 神明神社 秋山多吉郎ゆかりの地
 - 大浜公園 堺台場跡
- 南海高野線 堺東駅
 - 妙国寺 土佐十一烈士切腹の地
 - 宝珠院 土佐十一烈士墓
- 南海高野線 大阪狭山市駅
 - 狭山藩陣屋跡 刺新橋古場跡
 - 報恩寺 天誅組立ち寄り所
- 近鉄南大阪線 川西駅
 - 錦織神社 河内勢天誅組記念碑
 - 水部邸
 - 養楽寺 水部家墓所
- 南海高野線 河内長野駅
 - 観心寺 楠正成像
 - 天誅組の碑、恩賜講堂
 - 千早赤坂 楠公誕生地碑
 - 西条酒造「天野酒」 西条平三旧宅
 - 薄畑 辻ノ上為太郎旧宅
- 西海高野線 三田市駅
 - 烏帽子形八幡宮 黒谷翁碑文
 - 上山墓地 黒谷吉六郎墓
 - 三日市郵便局 八木新右衛門旧宅
- 南海高野線 天馬駅
 - 蟹井神社 田中大蔵・藏太ゆかりの地

1 研究目的

- 大阪は、江戸時代に城下町。
武士の町として、もっと見直されるべき。
- 今年は「幕末・維新150年」。
- 幕末維新に活躍した剣豪・剣客たちの活躍を明らかにし、史跡をめぐる散歩コースをつくる。
- 大阪は今でも剣道が結構強い。
- 剣道はスポーツと伝統文化とが融合している。
- 剣道を、近隣住民や国内外の観光客向けの誘致事業として活かし、観光産業の活性化につなげよう。

2 問題意識

- 大坂の武士は、どれだけいた？
- 凄腕の剣豪は、どこで稽古した？

- 大坂に武士は約1万人いた。
幕臣は大坂城代、定番、加番、東西町奉行、代官、奉行所の与力同心
地方大名の蔵屋敷の勤番侍
周辺の摂河泉三国には旗本領の代官や
岸和田藩、狭山藩、丹南藩、麻田藩などの藩士
幕末には農兵が徴集され、剣槍と砲術を稽古した。

・他にも町人地に、浪人や任侠なども

- 大塩平八郎の乱や天誅組の侍はどこで稽古したのか。
- 幕末維新にやってきた剣豪・剣客はどこで稽古したのか。
- 鳥羽・伏見の戦い後に起きた治安の乱れを、誰が守ったのか。

3大坂の稽古場を探せ…当時道場とは言わない

- (1) 幕臣や藩の家臣
- 大坂城代上屋敷 稽古場
 - 東町奉行所、大坂代官所、西町奉行所 稽古場
 - 肥後細川藩蔵屋敷 養成館と稽古場
 - 岸和田藩・狭山藩 剣術稽古場
- (2) 幕末 講武所師範役や遊撃隊隊士 将軍徳川家茂の上覧17回
- 玉造臨時講武所(1866(慶応元)年閏5月29日～) …大坂城外堀南側
 - 陸軍所(訓練場)(1867(慶応2)年11月18日～)
伊庭八郎の『征西日記』では、遊撃隊の教授方・隊士は、みな稽古に出席
- (3) 町人や農民
- 山崎蒸(新撰組探索方)は天満与力町の剣術道場に。香取流棒術も皆伝
 - 任侠の明石屋万吉は太融寺裏境内で、神道無念流目録の吉井又右衛門に
 - 谷万太郎槍道場 (直進流剣術、種田流槍術)
 - 島男也(おのや)剣術道場 (皇道剣法鹿島流)
 - 一円俊之助の二円道場 (流派不明、所在不明)
 - 水郡(にこり)家道場 (天羽(あもう)流居合術、河内天誅組)

4 ここで、剣豪・剣客の定義

- (1) 剣術の凄腕の持ち主で、剣術の創造者と伝承者の側面を備える人物。
(2) 剣客(けんかく)とは、剣術を修行し、優れた剣士

<幕末江戸三大道場>「技は千葉、位は桃井、力は斎藤」と松崎浪四郎の評価

- ①北辰一刀流 玄武館 千葉栄次郎成之(1833-1862) …水戸藩士
桶町 千葉重太郎(1824-1885) …鳥取藩士
門人に坂本龍馬(土佐)
- ②鏡心明智流 士学館 桃井春蔵直正(1825-1885) …門人に武市瑞山(土佐)
- ③神道無念流 練兵館 斎藤弥九郎義道(1798-1871) …門人に桂小五郎(長州)
斎藤新之助(1828-1888) 渡邊昇(大村)
- <四大道場なら>
- ④心形刀流 練武館 伊庭軍兵衛秀俊(1822-1886) …講武所師範役
伊庭八郎治秀顯(1843-1869) …戊辰戦争で隻腕の剣士
- <五大道場なら>
- ⑤直心影流 男谷道場 榊原健吉友善(1830-1894) …撃剣興行、天覧兜割
- ⇒ 江戸四流派の剣豪・剣客が来坂した(赤字)

5 幕末維新に来坂した剣豪で、大坂に拠点を移した剣豪は？

鏡心(新)明智流 士学館の桃井春蔵直正

- 特技 ①品格のある稽古
②優秀な人材の育成

- 全日本剣道連盟の「剣道殿堂」において、2005(平成17)年の第二次顕彰者の剣道家顕彰として表彰。

6 剣豪 桃井春蔵直正の足跡

(1)なぜ剣豪になれたのか 『鈴鹿家文書』より

- 幼少期は多病虚弱だったのに…
- 実父は養子の話を辞退したが、三代目桃井直雄が「師匠の見立ては正しい」と言い張ったので、申し出を受けた。
- しかし、親戚・兄弟子たちから、「ものにならない」と物笑いにされた。
- ◎そこで、養父の期待に応じて、一念発起して修業に励み、三年後に見違えるように逞しくなり、周囲を見返した。伝書の書写も同様に上達。
- ◎剣術での誉れは、随一の千葉栄次郎に試合で十本のうち九本勝ち。
- 健康でなかった同世代も、稽古で心身を鍛練
- 福沢諭吉(1834-1901) ⇒ ◎立身新流居合術を修めて健康に。
晩年、鞍走りの早さは達人の域に。
- 伊庭八郎(1843-1869) ⇒ ◎稽古で鍛えて山岡鉄舟の突き技に勝つ
- 沖田総司(1842-1868) ⇒ ◎天然理心流・試衛館の塾頭、のち新撰組一番隊隊長

(2)《新発見》ゆかりの地は ×石川幸雲院

① まず、春蔵は朝敵の汚名に堪えず、遊撃隊から離脱

<政治の状況> 1867(慶応3)年
7月、遊撃隊頭取並として176人を率いて上洛。
二条城の15代将軍徳川慶喜を警護。
10月14日大政奉還、12月9日王政復古。
12月21日徳川慶喜が主戦派と倒幕派との衝突を避けて下坂に従う。
大坂での遊撃隊の屯所は、天満の町奉行組屋敷。(新撰組は天満宮に)

- この間、恭順論を主張。遊撃隊頭取の今堀登代太郎(剣術)に、「勲命に対する暴挙を遺憾に堪えず」と数度諫めたが聞き入れられず。
- 12月28日(江戸の御用盗鎮圧の知らせが届いた日)、致仕願いを代理の遊撃隊頭取の駒井但馬守(志津馬)(槍術)に提出。

<身体状況>

- 9月より脊骨痛で、幕府奥医師の石川香雲院(良信、号は桜所)へ受診。
- 冬より寒邪・発熱・腹痛・下痢で、大坂の町医師石村友徳へも受診。
- その上、疲労と筋骨疼痛で屈伸が不自由、回復せず空しく時が過ぎた。

②桃井(秋山)多吉郎と黒谷左六郎が活躍

中津藩蔵屋敷 から 松原宿 吉田源兵衛宅 へ

- 1月3日(遊撃隊は今堀が半数を率いて鳥羽口へ布陣、残りを駒井が大坂城内に)駒井但馬守の使者は、朝は病気の養生を伝えにきたが、夜は暴徒となり、彼の印牌をはじめ荷物を残らず取りあげられた(鳥羽・伏見の開戦が午後5時ころ)
- そこで、駒井氏へ届出書を遣わしたが、立ち去った後であった。
- 中津藩蔵屋敷へ退避。桃井多吉郎が守り、中津藩士の黒谷左六郎が介抱。
- 1月8日あるいは13日、大坂に進駐した伏見宮の御内で、春蔵門弟の萩原内蔵(未詳、公家なら萩原員光・員種、武家なら相州の萩原太郎か)が迎えに来た。そこで、河内国松原宿吉田村(現、東大阪市吉田町)の庄屋で孫弟子にあたる吉田源兵衛(玄兵衛、思玄)宅(富景楼)に身を寄せた。
- この間、下寺町の大蓮寺和尚(秋田寛瑞、説教和尚)の徒弟として出家も考えた。
- 1月17日、大坂の仁和寺宮陣営(北御堂)に出頭。事情を説明したところ、お聞き届けられ、大坂表御用処の萩原氏宅に同居した。
- 2月23日、門弟2人と家来1人がやって来た。
- 江戸に逃れた今堀氏から、備東(江戸城防衛)を促してきたが断った。

③新政府に出仕

府兵浪華隊の撃剣師範役、土学館再興

- ・5月初旬、新政府へ帰順。江戸から(治安が乱れ、上野影義隊の戦いを避けて)妻が四男五男を連れて大阪へ。
天満鈴鹿町に居を定め、川崎の建国寺の境内にて
(官軍の長州兵などに)撃剣教授。
- ・10月中旬、東京の長男よりの書状。徳川家から御暇状を受け取ったと知る。
(長男は養子の左右八郎直行、土学館継承。
新政府刑法官の剣道教師。明治10年病死)
- ・10月下旬、大阪府に勤める門弟(未詳)が新政府への出仕を促してきた。
奉仕の願届けを提出。
- ・11月19日、府兵(浪華隊)監軍(兵級二等)に採用。(兵級一等は設けられず)
- ・1869(明治2)年4月10日、撃剣師範役兼務。
土学館を再興(北桃谷町の五十軒屋敷)。師範代業塾頭は桃井(秋山)多吉郎。
- ・1870(明治3)年7月、浪華隊解散

④神に仕える身から 再び撃剣を教える

- ・1870(明治3)年7月、府の権大属で庶務掛に。
- ・1874(明治7)年10月、(県知事税所(さいしよ)篤(旧薩摩藩士)の引きで)堺県の等外吏、応神天皇や仲姫皇后の陵墓に。
- ・1875(明治8)年、豊田(こんだ)八幡宮の神官、境内の東一院に住む。
- ・1878(明治11)年、千早赤坂村の「楠公誕生地」碑銘(亡き大久保利通に代わって)
このころ、1876(明治9)年に廃刀令。京都府では撃剣の稽古禁止に。
1877(明治10)年、西南戦争で抜刀隊・警視隊が活躍。
1878(明治11)年、大久保利通(旧薩摩藩士)暗殺の影響で、要人護衛の必要。
1879(明治12)年、大警視川路利良(旧薩摩藩士)が『撃剣再興論』。
政府が警察巡査にサーベル帯剣を義務づけ、巡査教習所で撃剣教授が始まる。
1882(明治15)年から撃剣ブームに
- ・1882(明治15)年11-12月、堺県十津川村文武館撃剣教師
- ・1884(明治17)年、(大阪府警察部長の大浦兼武(旧薩摩藩士)の引きで)
大阪府御用掛剣道指南方
- ・1885(明治18)年、大洪水のあと、12月8日、コレラで死去。墓地は豊田西墓地。

(3)弟子たちの活躍

①秋山多吉郎(1845-1934) 幻の剣道・柔道範士

- ・三代桃井直雄の弟直則の子。徳島市古物町生まれ。
- ・剣術は、津山勝馬(徳島藩、北辰一刀流千葉周作門人)、次いで笠間浪士の島男也、玉造臨時講武所の飯部大作(三河吉田藩)に学び、江戸で桃井春蔵直正の学僕に。
- ・柔術は真道弥生流、天神真楊流、ともに免許皆伝。(柔術真之神道流の免許皆伝とも)
- ・維新後、大阪に土学館が再興され、師範代業塾頭。
座摩神社境内の秋山道場、南北堀江、堺電神道場も監督。
- ・このころ、浪華隊にも所属し、石割強盗を取り締まる。
- ・1870(明治3)年、浪華隊解散。鏡心明智流の免許を受ける。
- ・1871(明治4)年、徳島藩剣術指南役となり帰郷するも廃藩、再び来阪。
西区の藍玉商の秋山氏に夫婦養子。南堀江に学習館。
- ・1877(明治10)年、撃剣興行が流行、新町遊郭の高島屋などで撃剣興行をおこなう。
- ・このころ道場に、高橋越太郎(無外流)や香川善治郎(無刀流)が逗留。
- ・1880(明治13)年ころ、「秋山社」を組織し、市中の警備を行う。
- ・1916(大正5)年大日本武徳会剣道範士。
- ・1924(大正13)年80歳で宮城済寧館での台覧試合で優勝。
- ・1928(昭和3)年84歳で柔道教士を受ける(翌年の範士内定を固辞)。
- ・1934(昭和9)年、堺の栄橋町にて死去、90歳。阿倍野墓地。
- ・幼いころに心得た鍼灸を、晩年になって免許取得。キリスト教の洗礼も受ける。

②黒谷(くろや)左六郎重寛(1836-1904)

剣術三流派を極め、神に仕える精錬証受賞者

- ・豊後國中津藩士。1836(天保7)年生まれ。
- ・剣術は外他(とだ)流一刀流坪阪何右衛門から免許。
- ・久留米藩の浅山一伝流17代津田傳(一左衛門正之)から免許。
- ・江戸で桃井春蔵直正に入門。
- ・1862(文久元)年、武蔵忍藩(藩主奥平松平氏)の師範に。中津藩で師範に(江戸詰)
- ・將軍護衛の桃井春蔵に従い上方へ。
桃井春蔵あるところ、必ず黒谷氏ありといわれ常に同行。
- ・1867(慶應3)年12月末から翌年1月、桃井春蔵を介抱。
中津藩蔵屋敷や松原宿へかくまう。
- ・1868(明治元)年9月、大阪安堂寺町に道場を開いて百五十人の門人。
中津藩へ呼び返される。
- ・1870(明治3)年、大阪市捕亡長となり、在勤中功があつて賞を受ける。
- ・1883(明治16)年11月(桃井春蔵の篤めにより)堺県の大和十津川文武館にて教授。
弟子に中井亀次郎(近衛兵、文武館剣道教師)(孫弟子に「社交ダンスの父」玉置真吉)
- ・1887(明治20)年7月、河内国三日月村大字喜多(現、喜多町)の鳥帽子形八幡神社の社掌に。境内で剣術を教えた。教えを乞う者三百人とも五百人とも。
- ・1900(明治33)年、大日本武徳会第5回武徳会大演武会にて、精錬証を受ける。
その後も連続出場。とくに、第8回では愛知の桂直温(のちの範士)に二本勝ち。
- ・1904(明治37)年9月死去、69歳。上田墓地。翌年8月、神社鳥居横に顕彰碑建立。

③河内長野の豪農剣士団(1900年代)

…黒谷の高弟、京都武徳会演武大会に第5回、第6回、
(第7回資料不足で不明)、第8回、第9回にも出場。
1905(明治38)年8月、黒谷翁之碑建立。

- ・天見の田中大蔵(高齢者表彰、豪農)
と田中蔵太(村会議員、蟹井神社神官)
- ・長野の西條平三(酒造業)
- ・瀧畑の辻ノ上為太郎(豪農)
- ・三日月市の八木新右衛門(豪農)

→<神に関わる師弟の繋がり>

桃井春蔵・秋山多吉郎・黒谷左六郎・田中蔵太

今後の課題

- ・廃刀令以降、大阪の剣術はどないになったん?
- ・大阪の撃剣興行はどんなんやったん?
- ・大阪府警の剣術師範は誰から誰へ?
- ・武徳会ができたころ、流派は何が残ってたん?
- ・学校教育では、どんな稽古やったん?
- ・戦前には、どんな技を使こうたん?
- ・今の強い人はどこで稽古してるん?
- ・外国のひとと一緒にできるん?

生涯スポーツの時代です。適度な剣道で健康を増進しましょう。
日本文化もお楽しみいただけます。
なお、やり過ぎには注意しましょう。
健康と財産を損ねるおそれがあります。

大阪の道沿い(筋.通り)の銀行変遷から大阪を探る

柳原 信雄

【目的】

明治時代、大正時代に設立された銀行は、まだ御堂筋が拡幅されていない時代であり、高麗橋通などが銀行の中心であった。当時から現在までの、道沿いの銀行変遷を調査することによって、銀行が果たした大阪文化商業面での貢献度、又銀行店舗の移転状況からも当時の時代背景が見えてくる。現在、銀行跡地については現存している建物は少ないが、跡地近辺での銀行遺構あるいは何らかの関わりがあるものを調査し、大阪の銀行歴史への関心を高め、大阪観光面での新たな発見をすることが、今回の研究目的である。

【内容】

明治、大正時代にあった銀行の道沿いを調査

- 1 北浜通 北浜銀行の変遷、関わった人物を調査(岩下清周)
- 2 高麗橋通 第百三十国立銀行の変遷、関わった人物を調査(松本重太郎)
- 3 今橋通 日本信託銀行の変遷、関わった人物を調査(林市蔵、太田垣士郎)
- 4 備後町通 逸身銀行の建物→芦屋市立図書館打出分室建物のルーツ説を調査
- 5 淀屋橋筋 藤田銀行(藤田財閥系銀行)の調査
- 6 御堂筋 住友銀行備後町支店、日本不動産銀行大阪支店の変遷を調査
- 7 あみだ池筋 三菱銀行、住友銀行、三和銀行、大和銀行、等の各支店の変遷を調査

【結果】

明治時代、大正時代の銀行跡地を調査の過程で現地訪問したが、跡地の大半は銀行以外の建物となっている。今後も銀行統合、店舗統合が加速するものと思われ、昭和時代の面影を残す銀行建物は取り壊される運命にある。せめて銀行建物の遺構を残してほしいものである(旧建物の写真入り顕彰碑、建物の一部を残す→門柱、銀行看板など)。

今回は御堂筋の銀行今昔マップを作成したので、なつかしい銀行の名前を思い出しながら、散策してもらいたい。

今後は忘れ去られた銀行の足跡、大阪への関わりを中心に、研究を続けていきたい。
(参考文献など)

住友銀行史 三和銀行史 大和銀行史 富士銀行史 日本債券信用銀行史 西区史
大阪市史 大和証券史 第一勸業銀行史 大阪春秋第4号 広報芦屋 NO1218
紀陽銀行史 気張る男(城山三郎) 両替商銭屋佐兵衛(逸身喜一郎) サンワのあゆみ
三菱銀行史 日本生命史 企業家たちの挑戦(宮本又郎) 銀行変遷データベース
銀行総覧(国立国会図書館デジタルコレクション) 松濤秀萃(松山与兵衛)
近代大阪の建築(大阪府建築会) 大大阪画報(大大阪画報社)

北浜銀行 北浜通

北浜銀行本店
近代大阪建築写真

1897年(明治30年) 藤田伝三郎 磯野小右衛門らが中心となり創設 岩下清周を経営者として迎える

現在トレードピア淀屋橋ビル

北浜銀行 1897 → 摂陽銀行 1921 → 三十四銀行 1926 → 三和銀行 1933 現三菱東京UFJ

三休橋筋 土佐通 北浜通 今橋通

2 適塾跡
4 鴻池本宅跡
3 大阪慶應義塾跡
5 鴻池銀行本店 近代大阪建築写真より

北浜銀行頭取 岩下清周

岩下清周 1857～1928 長野県松代出身
1896年(明治29年)三井銀行を退職後 北浜銀行設立に参画
1903年(明治36年) 四代目頭取に就任
大阪電気軌道 箕面有馬電気軌道では社長も務める
1914年(大正3年) その後北浜銀行破綻により頭取を辞任
翌年背任横領罪で逮捕 出所後 富士山麓の裾野で隠棲する

関連人物	関連企業	現企業名
小林一三	箕面有馬電気軌道	阪急電鉄
金森又一郎	大阪電気軌道	近鉄
谷口房蔵	大阪合同紡績	東洋紡績
大林芳五郎	大林組	大林組
森永太郎	森永商店	森永製菓
豊田佐吉	豊田式織機	トヨタの源流
湯川玄洋	湯川胃腸病院	湯川胃腸病院

湯川秀樹は玄洋の娘婿

百三十銀行 高麗橋通

百三十銀行本店
1900年(明治34年)建築 大大阪画報写真

大阪財界の重鎮 松本重太郎が 1878年(明治11年) 設立 1904年(明治37年) 破綻 安田善次郎の救済を受ける

現在オリックス高麗橋ビル

第百三十国立銀行 1878 → 百三十銀行 1898 → 安田財閥の傘下銀行となる 1904 → 安田銀行 1923 → 富士銀行 1948 現みずほ銀行 大阪支店

1960年(昭和35年) 御室筋沿いに移転

現存している 百三十銀行建物 北九州八幡区 旧百三十銀行キャナル

日本生命 心斎橋筋 井筒筋 今橋通 高麗橋通

百三十銀行頭取 松本重太郎

松本重太郎 1844～1913 丹後国竹野郡間人村出身 (現 京丹後市丹後町間人)
10歳で京都の呉服商に 丁稚奉公にあがる
その後大阪に出て、24歳の頃 独立 洋反物商として財を成し
1878年(明治11年) 第百三十国立銀行設立
1904年(明治37年) 百三十銀行破綻 安田財閥の傘下銀行となる
その後一切の事業から手をひき余生をすごす

百三十銀行を救済 安田善次郎

関わった主な企業名	現企業名
百三十銀行	みずほ銀行
阪堺鉄道	南海電鉄
大阪紡績	東洋紡績
山陽鉄道	JR西日本
阪鶴鉄道	JR西日本
大阪麦酒	朝日ビール
日本火災保険	損保ジャパン 日本興亜
日本紡織	倒産

岩下清周と松本重太郎

岩下清周 松本重太郎

大阪銀行集会所委員 大阪銀行協会史 写真 明治34年

北浜銀行頭取 百三十銀行頭取

人物本位の貸出 経営銀行破綻

現存する関わった主な企業

大林組 森永製菓 東洋紡績 トヨタ 朝日ビール 東洋紡績 損保ジャパン 日本興亜

近鉄 阪急 阪神 南海

大阪私鉄への関わり

日本信託銀行 今橋通

日本信託銀行
1920年(大正9年) 島徳蔵らが中心となり 大阪株式取引所の機関銀行として設立 初代頭取 林市蔵 同年7月 太田垣士郎 入行

1924年(大正13年) 林市蔵辞任 (石井定七事件)
1943年(昭和18年) 銀行業務を安田銀行に譲渡
1945年(昭和20年) 藤本証券(株)と合併 大和証券となる

林市蔵 1867～1952 熊本県出身 第15代大阪府知事 日本信託銀行初代頭取

太田垣士郎 1894～1964 兵庫県城崎出身 京阪神急行電鉄 社長 関西電力 社長

大阪パラマ地図大正12年

日本信託銀行 近代大阪建築写真 現タワーマンション

逸身銀行 備後町通

1880年(明治13年)設立
備後町二丁目
両替商銭屋(逸身佐兵衛)
が設立 頭取逸身佐一郎
1901年(明治34年)廃業

逸身佐兵衛の子息
福本元之助
逸身銀行 取締役
尼崎紡績 3代目社長
逸身銀行破綻により
尼崎紡績社長を辞任

逸身家は尼崎紡績設立に
参画 福本元之助は発起人の
一人となる
初代社長 広岡信五郎
2代目社長 木原忠兵衛
3代目社長 福本元之助

大坂市内の私立銀行一覧表
1881年(明治14年)
サンワのあゆみより

逸身を逸見と誤記

芦屋市立図書館打出分室
逸身銀行の
建物を移築
したとの説あり
有形登録文化財

これまでの通説
大阪の素封家 松山与兵衛氏が
昭和5年に逸身銀行の建物を購入して
芦屋に移築し 美術品を保管していた
その後芦屋市が買い取って
現在図書館として使用している
芦屋郷土誌より

芦屋市立図書館打出分室 東京貯蔵銀行の建物説

1990年(平成2年)頃 分室と酷似した
東京貯蔵銀行大阪支店の写真を
発見→ 山形政昭教授

その後地元建築家の姉川昌雄氏が
現行の建物と東京貯蔵銀行
大阪支店の写真の細部が一致
することを確認

その後も調査研究を進めているが
新たな資料が見つからない
芦屋市教育委員会

松山与兵衛著書 松濤秀幸より
昭和五年末 大坂市内某銀行の
石造建築物が道路改修のために
取除かれることになっていたのを
買い受け 今の場所に移植した
もので 約一ヶ月の日子を費して
漸く竣工したのである(原文のまま)

東京貯蔵銀行
大阪支店
大坂画報写真
昭和3年

芦屋市立図書館打出分室
大阪パノラマ地図
大正12年
平野町

当時の松濤館
松濤秀幸写真より

東京貯蔵銀行大阪支店の建物変遷を推理 備後町通～平野町通

東京貯蔵銀行
1880年(明治13年)東京に設立
日本最初の貯蓄銀行として設立

川崎第百銀行
合併 1936

第百銀行
行名変更
1936

三菱銀行
合併 1943

大阪支店の変遷 (所在地は銀行総覧で確認)

東区備後町二丁目
大正2年開設
建物新築

東区平野町二丁目
大正9年移転
建物移築

南区東清水町
昭和3年道路改修のため移転
旧建物売却

東区平野町二丁目
昭和5年後焼
建物新築

川崎第百銀行と合併
昭和三十二年

庶民金庫大阪支所に賃貸

新建物
近代大阪建築写真より
東京貯蔵銀行大阪支店

東京貯蔵銀行と誤って記載の建築写真集が
発見される

建築時期の検証必要
過去の文献では大正9年建築とあるが
昭和5年頃と推察
その後本建物は
紀陽銀行 日本短期等を継いで
現在青空駐車場

建物の状況については
推論であり確実な資料にも
とづく 検証が必要
引き続き調査したい

旧建物
道路改修のため
取り除かれることになり
松山与兵衛氏に売却
したものと推察

藤田銀行 淀屋橋筋

藤田銀行本店
大坂画報写真より

淀屋橋筋沿いにあった藤田銀行
藤田銀行
淀屋橋筋

藤田銀行(藤田財閥系銀行)
1917年(大正6年)
藤田平太郎が設立
(藤田伝三郎の長男)
1928年(昭和3年)
金融恐慌により破綻
満池銀行 野村銀行などに
営業譲渡し 銀行を整理

藤田邸跡公園

住友銀行備後町支店 御堂筋

住友銀行 現三井住友
備後町支店
どの場所に移転しても
支店名は 備後町支店

1 備後町
1916年(大正5年)
武田御堂筋ビル

2 淡路町
1921年(大正10年)

3 五町
1952年(昭和27年)

4 現在 道修町
武田御堂筋ビルに
入居
備後町支店

5 北浜へ移転予定
2018年(平成30年)

大阪本店営業部内に
店舗内店舗として移転
備後町支店の名前は残る

三井住友銀行

御堂筋
道修町
平野町
淡路町
五町
備後町

三井住友銀行大阪本店
大坂パノラマ地図大正12年

日本不動産銀行大阪支店 御堂筋

日本不動産銀行
1957

日本債券信用銀行
1977

あおぞら銀行
2001

1957年(昭和32年)
旧朝鮮銀行の国内残余資産で設立
1977年(昭和52年)
日本債券信用銀行に行名変更
その後一時国有化を経て現在は
あおぞら銀行

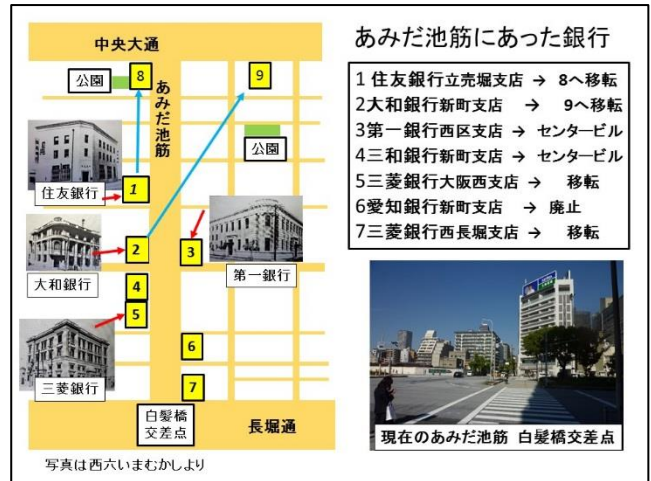
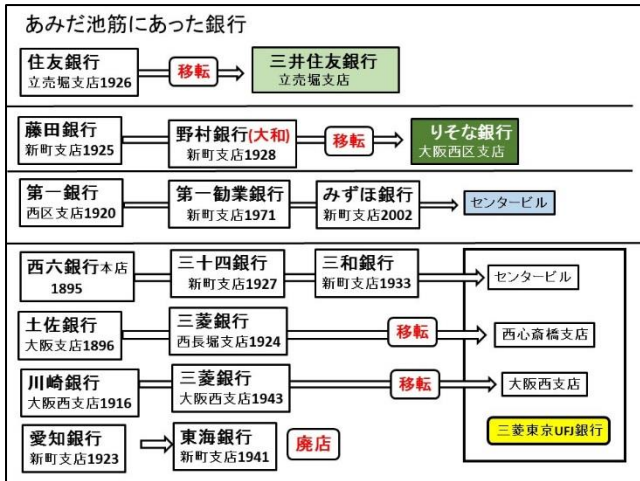
大阪支店開設
高麗橋4丁目
三和銀行ビルを賃借
旧三十四銀行本店ビル
1957
近代大阪建築写真より

難波神社
玉垣寄進

順慶町に移転
御堂筋沿い
順慶町三和ビル
を賃借
1961

自前ビルに
新築移転
御堂筋沿い
難波西之町
1973

現在関西アーバン
銀行本店ビル



三菱銀行大阪西支店 あみだ池筋 西長堀界隈

旧三菱銀行大阪西支店
現三菱東京UFJ

1916年(大正5年)
川崎銀行大阪西支店として
新町通3丁目に開設
1927年(昭和2年)
新町南通4丁目に新築移転
1943年(昭和18年)
合併して三菱銀行となる
1970年(昭和45年)
阿波座へ移転

三菱ゆかりの土佐稲荷神社
岩崎弥太郎の別名

和光寺 阿弥陀池
岩崎邸跡碑
寄進玉垣
岩崎邸跡碑

住友銀行立売堀支店 あみだ池筋 薩摩堀界隈

旧住友銀行立売堀支店

1925年(大正14年)
立売堀南通5丁目に開設
1970年(昭和45年)
立売堀南通2丁目に移転
現 住居表示立売堀4丁目
2001年(平成13年)
さくら銀行と合併
現在 三井住友銀行

広教寺 浄土真宗

西区最古の寺
別名薩摩堀御堂
昭和の空襲で寺院焼失
その後豊中市に移転
現在も広教の呼称が
会館や町内会の名前に
残っている

薩摩堀公園
薩摩堀川跡碑
国旗掲揚台
広教会館
広教小学校跡碑

あみだ池筋 立売堀界隈

株式会社山善
大阪を本拠とする在阪商社

創業者 山本猛夫
福井県丹生郡三方村出身
1921~1991

テレビドラマ
どてらい男
のモデル

本社前モニュメント

山善

大阪府警
機動警ら隊

近隣公園
阿波座南公園

大阪商業講習所跡
六代商業講習所跡

サムハラ神社
バウンスネットとして人気

終わりに

明治時代 大正時代の
銀行跡地は 大半が銀行以外
の建物となっている
今後も銀行統合 店舗統合により
銀行建物の減少は避けられない

提言

- 銀行建物の転用促進
(レストラン 公共施設など)
- 建物の一部を銀行遺構
として保存→門柱 銀行看板など
- 写真入りの案内板を跡地に建立

「座」・金融都市大坂探訪

森島 克一

【目的】

今年大阪は開港 150 年で盛り上がりを見せているが、多くの両替商が廃業に追い込まれ大阪衰退の一因となった「銀目停止」からも 150 年の節目を迎える。

また、「問屋と両替屋が近世大阪の商活動の中核であった」（宮本又次氏）わけで、江戸時代の大阪には金融・貨幣を司った銀座や銅座、銭座など（以下、「座」）が多く存在し、今日一部は跡として遺されていることに気づく。

以上を踏まえ、近世金融都市であったことの表れである「座」に焦点を当て、関係する人物や物語を結びつけた大阪ならではの観光を考えることとした。

【内容】

銀座と言えば地名に残る江戸銀座が有名だが、大坂銀座の開設は江戸より 4 年も古い。また、「ものの始まりなんでも堺」の一つに数えられる通り、銀座の起源は室町末期の堺・南鐮座に遡ることができる。さらに江戸の金座に対し、大坂北浜の金相場会所では金銀相場が建てられた。その場所には現在大阪取引所が建つ。

銅座は長崎貿易での支払用の銅を調達するために大坂に置かれた役所であり、市内には明和の銅座跡が残るほか銅座公園や銅座幼稚園も存在する。さらに狂歌師・文人として名高い大田蜀山人が銅座役人として大坂に駐在した時期の足跡も残る。銅座が置かれたのは銅精錬の中心地であったからであり、泉屋住友、とりわけ「業祖」蘇我理右衛門やその長男住友友以の存在が大きい。当時日本最大の銅精錬所であった長堀銅吹所の跡が残るほか、實相寺や久本寺には住友家歴代の墓所がある。

銭座は銭貨を鑄造した機関であり、大坂三銭座と言われる 3 つの銭座があった。まず、加島銭座は、上田秋成隠棲の地でもある淀川区の香具波志神社に石碑がある。神社では、砥石など鑄銭道具や銭座職人の奉納品、銭座に関する記録や絵図を所蔵している。また、高津新地銭座は、黒門市場近くの黒門公園内に石碑が建てられている。ところが、難波銭座の所在地については文献上はっきりせず、碑などもない。この点に関し、代々難波村庄屋を務めた家に伝えられた文書に、難波銭座の時代から約 30 年後に起きた幕府による農地取り上げへの反対運動の記録が残されており、今回これを手掛かりに難波銭座の所在地を推定した。さらに、幕末期に天保通宝を鑄造した難波村鑄銭出張所の存在にも気づき、その絵図から所在地を推定した。

【結果】

大阪にかつて存在した「座」を切り口に近世大阪を見てきた訳だが、現在ではこれら「座」の存在について多くが忘れ去られている。その一方で、「近現代の鑄銭所」と言うべき造幣局や造幣博物館も大阪にあることを踏まえると、これだけ揃っているのは大阪だけというのも事実である。これらの集積は観光資源として注目に値するものでないだろうかとは私は考える。

1. はじめに

江戸時代、幕府は金貨・銀貨・銭貨という三つの形態で、全国に貨幣を供給した。この三貨制度のもとでは、金貨（両）、銀貨（匁）、銭貨（銭）で単位が異なり、このうち銀貨は秤量貨幣で重さを量って使った。さらに、江戸は「金遣い」、大坂・京は「銀遣い」で、数え方や使い方が異なり複雑なものであった。このような環境下、経済の中心大坂においては、銀座・銅座・銭座などが設置され、商品流通の発展を支えた。

2. 銀座

銀座はまず伏見・駿府におかれ、のちに京都・江戸に移されて、丁銀や豆板銀などを鑄造した。1612年（慶長17年）江戸銀座が置かれた場所が、現在の東京・銀座である。1608年（慶長13年）に大坂にも銀座が置かれた。この大坂銀座は貨幣を鑄造せず、生野や石見などの銀山や銅吹屋が産出する銀を集めて京都銀座に送るといふ、交易の中心大坂ならではの役割を果たした。開設時期に注目すると江戸銀座より古い歴史を持つことになる。現在、「大阪銀座跡」の碑が東高麗橋に残る。



室町時代末期、堺には、荒銀を買い集め銀細工をする人たちが集まっていた。豊臣秀吉の時代にこれらの職人の一部に「常是」という特許が与えられた。徳川家康は、伏見銀座の「御銀吹役・改役」（技師長）に堺・南鐮座の湯浅作兵衛を選び、大黒常是と名乗らせた。その後も大黒家が代々銀座の技師長を務めた。「ものの始まりなんでも堺」と言われるが、この中で銀座の始まりは堺・南鐮座とされている。さらに堺に伝わる「銀座の柳の言い伝え」によれば、東京銀座の柳の由来は、江戸に移った職人たちが堺を懐かしみ堺から柳を移植したことにあるという。史実かどうかはさておき、これを前提にすると、堺東駅前の「堺銀座通り」商店街と柳並木には特別の意味合いがあることになる。因みに南鐮座があった場所は判明していない。後世の文献であるが、大黒常是家の安永八年由緒書に「大小路」の地名が見えることから、堺の大小路界隈は候補地の一つであろう。

3. 金座と金相場会所

小判の鑄造所である金座があったのは江戸日本橋、現在の日本銀行本店の場所で、大坂にはなかった。大坂には金相場会所が設けられ、金銀相場が建てられた。現在北浜の大阪取引所がある場所であり、その壁面にレリーフが設けられている。

4. 銅座

江戸時代になると貨幣経済が発展し華美で奢侈な風潮が強まって行った。その結果、生糸・絹織物・薬品・砂糖などの贅沢品を長崎貿易により輸入するため莫大な金銀が海外に流出した。これに対し幕府は、輸入代金を銅（棹銅）で支払うこととし、銅を確保するために銅座を大坂に設けた。銅座は元禄・元文・明和の各時代に設置されたが、現在、中央区今橋3丁目の愛殊幼稚園の場所に石碑が建っているのは明和の銅座跡である。このほか、中央区内久宝寺町に銅座公園及び銅座幼稚園があるが、これはこの場所に銅座屋敷つまり銅座役人の住んでいた屋敷があったことに由来する。



大田南畝（蜀山人）は江戸中期の狂歌師であり当時の代表的文化人であるが、本職は幕府の役人であり、一年間銅座役人として大坂に駐在したことがある。この間大坂の文人たちと交流をしているが、その中で次のような逸話が残っている。

ある日、南畝は、天王寺の医師蕪坊と住吉詣の約束をした。蕪坊は茶店で待っていたが、

南畝が現れないのでしびれを切らせて、店の柱に狂歌を書いて帰ってしまった。

墨の江のきしによるから来るひとをまつは久しきものところしれ
その後やってきた南畝はこれを見て、同じ柱に書き付けた。

すみよしのまつべきものをうらなみのたちかへりしぞしづ心なき

この故事に因んで、南畝存命中の 1822 年（文政 5 年）に浪速の狂歌師連が住吉大社に蜀山人歌碑を建立した。現在も摂社大海神社の傍らに人知れずひっそりと残っている。



5. 銅吹屋の中心 泉屋住友

泉屋住友の銅事業の創始者は、「業祖」蘇我理右衛門である。理右衛門は、1572 年（元龜 3 年）河内国五條（現在の東大阪市枚岡）に生まれた。織田信長の本願寺攻めの際に泉州大鳥（鳳）に乱を除けた。鳳が蘇我氏の故地であったからであり、住友の舗号「泉屋」、商標の「井桁」は泉州及び和泉国に関係するとされる。（『泉屋叢考』）

理右衛門は慶長年間、泉州あるいは堺で、南蛮人あるいは中国人からのヒントに基づき日本で初めて「南蛮吹」を考案した。この技法は粗銅から銀を抽出できるという大きな利点があった。その後理右衛門は、大坂中の銅吹屋と師弟の約を結び南蛮吹の技法を伝授した。この結果、銅吹技術が大坂が独占し泉屋住友が銅吹屋の中心となるのである。

理右衛門の長男理兵衛は住友家の養子となり、住友家二代友以となる。友以は 1636 年（寛永 13 年）長堀沿いに銅精錬所を開設した。当時日本最大の銅精錬所で日本の生産量の 3 分の 1 を生産した。現在は、中央区島之内 1 丁目、末吉橋西詰近くに長堀銅吹所跡として近年発掘された炉などが展示されている。

史跡としては他に、上本町 4 丁目にある實相寺は住友家の菩提寺であり、初代政友をはじめ住友家歴代の墓碑約 40 基が境内奥に整然と並んでいる。さらに、谷町 8 丁目の久本寺には、法華宗を信仰していた 2 代友以、3 代友信、4 代友芳の墓所がある。



6. 銭座

銭座とは寛永通宝をはじめとする銭貨を銅・鉄・真鍮などを材料にして鑄造した機関である。享保期以降、大坂には大坂三銭座といわれる 3 か所の銭座が設けられた。時代順に、難波銭座（1728（享保 13）～1730（享保 15））、加島銭座（1738（元文 3）～1747（延享 4））、高津新地銭座（1741（寛保元）～1745（延享 2））である。

このうち加島銭座については、「雨月物語」の作者上田秋成の隠棲の地としても知られる香具波志神社（淀川区加島）に「上田秋成寓居・加島鑄銭所跡」の石碑が建てられている。加島での鑄銭は、材料難の時期にもかかわらず銅銭・鉄銭とも高品質であり、関西での銭貨供給の中心として「酒は灘、銭は加島」と称えられた。香具波志神社には、鑄銭に使われた砥石や坩堝、職人たちが奉納した「銭鳥居」などが保存されており、絵図「加島銭座図」には、銭座の建物群の向うに神崎川や船が描かれており当時の様子をうかがうことができる。実際に銭座があった場所は、神社に隣接する工場敷地と堤防の部分であり、現在も神崎川に面している。かつて「加島千軒」と呼ばれ、平安時代より神崎川の水運を背景に工業・河港・遊郭で繁栄したことを偲ぶことができる。また、JR加島駅のホームの壁面にはかつて銭座があったことを意識したデザインが施されている。

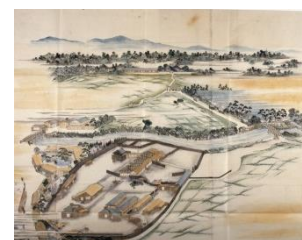


次に、高津新地銭座は、黒門市場や高島屋日本橋別館の東方にあたる旧（南区）御蔵跡町

周辺にあった。現在は黒門公園に「天王寺村鑄銭所跡」として石碑が建てられている。この銭座は「銅座の銭座」と呼ばれた幕府肝煎りの銭座であり、三町六反三畝（約 10,890 坪）と大規模なものであった。当時の他の銭座とは違って、材料となる銅の調達に困らない有利な条件のもとで操業ができたのだが、却って規律に緩みが生じ、支配人などが遊蕩と米相場で巨額の使い込みをして、請負人は責任を取り切腹、わずか 5 年で閉鎖となった。その後跡地は天王寺御蔵として活用された。

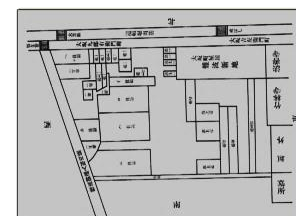


ところがこれらの銭座と異なり、難波銭座については、「道頓堀裏戎橋筋より西に当る」（『大阪市史』）とか「道頓堀九郎右衛門町南手の難波村畑地」（『大阪府の地名 I』）とある程度で、郷土史や貨幣史の文献上所在地がはっきりせず、碑なども存在しない。なお、『浪速区史』に難波銭座とされる絵図が載っているが、絵図の説明文に「慶応元年二月奉・・・百文銭ノ鑄造・・・江戸本座後藤吉五郎総督之」とあることから、これは『図録日本の貨幣 4』の「天保通宝の大阪鑄造」の項にある、幕末期に天保通宝を鑄造した難波村鑄銭出張所を描いたものである。この絵図と当時の古地図（『改正増補国宝大阪全図 文久三年』など）を照合し推定すると、この鑄銭出張所は現在の浪速区難波中 1 丁目、南海会館ビルの阪神高速を挟んで向かい側にあったと考えられる。



難波村鑄銭出張所之近景合図（日本銀行貨幣博物館所蔵）

では難波銭座はどこか。これに関しては、代々難波村の庄屋を務めた家に伝わった成舞家文書に手掛かりを見つかることができた。この文書には、難波銭座の時代から約 30 年後に起きた、宅地転用のための幕府による農地取上げに対する反対運動の記録「松安庄右衛門新建家願之事」が収録されている。この記録には、対象地の略図とともに、「道頓堀九郎右衛門町南表難波新地より折廻し当村領溝之側通之内三、四町歩」の土地は難波村の惣苗代場として利用されている農場で、以前新銭吹場としてこの地が選ばれたとある。この記事から難波銭座があったのは現在、御堂筋の西側で千日前通を挟む南北両側、近鉄大阪難波駅を凡その中心とする約 200m 四方（「三、四町歩」に相当）と推定できる。



「松安庄右衛門新建家願之事」の略図（大阪市史編集所蔵）

現在ミナミの繁華街となっている場所がかつて貨幣鑄造が行われていたことを、私たちは大阪の記憶として留めていかなければならない。

（参考文献）

『図録日本の貨幣』日本銀行調査局編 1973、『上方の研究 第 2 巻』宮本又次編 清文堂出版 1975、『近世銀座の研究』田谷博吉 吉川弘文館 1963、『上方と坂東』宮本又次 青蛙房 1969、『なにわ大阪再発見 第 4 号』梅棹忠夫監修 大阪 21 世紀協会文化部 2001、『フェニックス堺』堺市制 100 周年記念誌編纂委員会 1989、『大黒常是考』幸田成友 岩波書店 1932、『近世日本の銅と大阪銅商人』今井典子 思文閣出版 2015、『大阪商人』宮本又次 講談社 2010、『住友の経営史的研究』宮本又次編著 1979、『銅座幼稚園 50 年記念』銅座幼稚園 1978、『住吉大社』西本泰 学生社 1977、『大田南畝』杵掛良彦 ミネルヴァ書房 2007、『特別展 住吉さん 住吉大社一八〇〇年の歴史と美術』大阪市立美術館編 2010、『蘇我理右衛門寿濟翁の研究』（『泉屋叢考 第五輯』所収）住友修史室 1954、『日本の貨幣の歴史』滝沢武雄 吉川弘文館 1996、『日本銅鋳工業史の研究』小葉田淳 思文閣出版 1993、『大阪市史 第一巻』清文堂出版 1978、『大阪府の地名 I（日本歴史地名大系第 28 巻）』直木孝次郎他監修 平凡社 1986、『南区史・続』大阪都市協会南区制一〇〇周年記念事業実行委員会 1982、『浪速区史』川端直正編 浪速区創設三十周年記念事業委員会 1957、『東淀川区史』川端直正編 東淀川区創設三十周年記念事業委員会 1956、『古来より新建家目録見一件（大阪市史史料 第 10 輯）』（成舞家文書）大阪市史料調査会 1983



大阪府立大学 21世紀科学研究センターとは・・・

21世紀科学研究センターは、学域・研究科の枠を超えた学際あるいは分野横断型研究を進める「21世紀科学研究所」群で構成する研究組織で、本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として設立されました。

このセンターは、柔軟性と組織性を併せ持つ2つの設置形態の研究所で構成し、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の研究スタイルに新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられています。

観光産業戦略研究所（所長：橋爪紳也特別教授）

日本の観光産業は転機にある。国策に応じて海外からのビジターが増加するなかで、ホスピタリティーの向上や地域コンテンツの再評価が求められている。一方で都市型ツーリズム、ヘルスツーリズムやグリーンツーリズム、エコツーリズム、ヘリテイジツーリズム、ボランティアツーリズムなど、いわゆるニューツーリズムに注目が集まるなか、従来の観光産業の枠組みを越えて、地域ブランドに関わる産業、食や地域コンテンツなど文化産業の振興にも注目が集まっている。

本研究所では、新たなツーリズムの動向を受けつつ、観光関連の諸団体、NPOや自治体の関連組織を窓口とする産官学連携ないしは地域連携型の研究開発を実施、また観光統計の整備・分析、ケーススタディの蓄積などを行なう。観光学の理論的研究とともに、実学としての観光学の実証研究や実務への応用を積極的に推進する。

なにわなんでも大阪検定について

なにわなんでも大阪検定は、大阪が持つ歴史・文化の奥深さを再発見し、多様な大阪の魅力を知っていただくことを目的とした試験です。

大阪府立大学 21 世紀科学研究センター大阪検定客員研究員制度は、この大阪検定の最難関である 1 級に合格された方の知見を大阪の都市魅力向上に役立ててもらうため、大阪府立大学との提携により平成 25 年度に創設され、今年度までに延べ 59 名の研究員が担当教員である橋爪紳也教授（大阪府立大学 21 世紀科学研究センター・観光産業戦略研究所所長）の助言を得ながら「大阪の観光」および「大阪の観光産業」に資する研究に取り組んでまいりました。

大阪商工会議所は、これらの研究をより広く社会に還元し、「大阪の観光」および「大阪の観光産業」の一層の魅力向上に努めてまいります。本冊子に掲載している研究員の成果報告についてご関心を持たれた方は下記宛にお問合せください。

大阪商工会議所は、“なにわなんでも大阪検定”を通じて、大阪を知り愛する運動を推進し、大阪の都市ブランド向上を目指します。

問合せ：大阪商工会議所地域振興部
TEL 06-6944-6323
Mail chishin@osaka.cci.or.jp
<http://www.osaka-kentei.jp/>

